

国立国会図書館月報

稀本あれこれ-475- 『蒙古源流考』

- 1 **国立国会図書館の書庫**
—貴重な文化的財産を後世に伝える—
- 19 平成19年度図書館員のための利用ガイダンスの開催
- 20 第15回納本制度審議会および第6回納本制度審議会代償金部
会の開催について
- 22 中国国家図書館で過ごした3か月
～中国での在外研究を終えて～ =清水 扶美子
- 37 国立国会図書館年報（平成18年度）から
—統計を中心に— その1—

-
- 18 館内スコープ
 - 27 月例報告
 - 27 NDL news
 - 28 本屋にない本
 - 30 国立国会図書館の編集・刊行物
 - 39 知識をカタチに
—国立国会図書館が目指す「主題情報提供サービス」(6)
 - 40 ビジュアル国立国会図書館博物館 (9)

<お知らせ>

- 18 常設展示のお知らせ
- 31 メタデータ基準の公表と意見募集のお知らせ
- 31 第9回図書館総合展に出席します
- 32 平成19年度アジア情報研修「中国の学術情報を入手する」
- 33 国際子ども図書館展示会「ゆめいろのパレットⅢ—野間国際絵本
原画コンクール入賞作品アジア・アフリカ・ラテンアメリカか
ら」関連講演会のお知らせ

9

2007

No. 558

国立国会図書館利用案内

東京本館 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331
利用案内 電話 03 (3506) 3300 (音声サービス)
電話 03 (3506) 3301 (FAX サービス)

関西館 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話 0774 (98) 1200 (音声サービス)
利用案内 電話 0774 (98) 1212 (FAX サービス)

ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>

利用できる人 満18歳以上の方

資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。

開館日 月曜日から土曜日

休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日（第3水曜日）

所蔵資料 当館の所蔵資料は、納本、購入、国際交換、寄贈等によって収集され、東京本館、関西館、国際子ども図書館に分散して配置されています。

<東京本館のおもな資料>和洋の図書、和雑誌、洋雑誌（年刊誌、モノグラフシリーズの一部）、和洋の新聞、各専門室資料

<関西館のおもな資料>和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

----- 東京本館のサービス時間 -----

開館時間 月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00

※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。

資料請求時間 月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00

※ただし、音楽・映像資料室、人文総合情報室特別コレクション、憲政資料室および古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。

即日複写受付 月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00

後日複写受付 月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30

オンライン複写受付 月～金曜日 10:00～17:30 土曜日 10:00～15:30

----- 関西館のサービス時間 -----

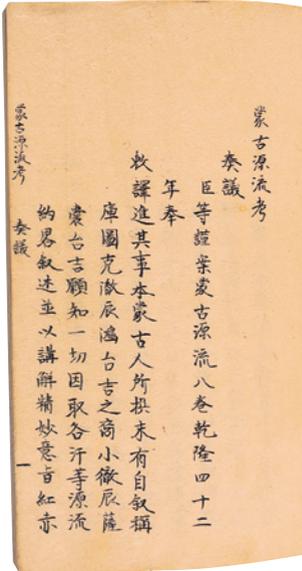
開館時間 10:00～18:00 **即日複写受付** 10:00～17:00

資料請求時間 10:00～17:15 **後日複写受付** 10:00～17:45

セルフ複写受付 10:00～17:30 **オンライン複写受付** 10:00～17:00

※詳しくは当館ホームページをご覧ください。

蒙古源流考



自不全歷代史官據拾影嚮附會之詞妄加纂載以致魚魯謬戾不可復得此以定正外訛莫為之裨史學仰惟我
國家萬方同軌中外嚮風蒙古諸部久為臣僕乃得以其流傳秘冊元外史之儲藏用以參考舊文蓋却且愈沿謫之陋一統文武之盛治詢上古為

奏、
獨隆矣乾隆五十五年七月恭校上
總纂官 臣 陸錫熊 臣 紀昀 臣 孫士毅
校 官 陸 費 臣 埈
六

稀本古札之札

(475)

『蒙古源流考』

『蒙古源流考』は、モンゴルの三大史書の一つに数えられる『蒙古源流』の別称である。『蒙古源流』は、清朝治下の17世紀、モンゴルの人サガン・セチェンがモンゴル語で執筆した、世界の始まりから著者の時代に至るモンゴル民族の歴史として名高い。本書の書名は幾通りか知られているが、“Qad-un Ündüsün-ü Erdeniyin Tobçi”（カンたちの根源にまつわる宝の史綱）というのがモンゴル語での正しい書名とされる。

この史書は1662年に完成したが、その後一世紀あまり、モンゴル以外の地域では知られることがなかった。乾隆31（1766）年に、モンゴル民族の系譜に疑問を抱いた乾隆帝が、モンゴル人で定辺左副將軍のチェンゲンジャブにチンギス・カン家の出自について調査のうえ報告するように命じた。その際チェンゲンジャブは、乾隆帝の求めに応じ、彼の家蔵本『蒙古源流』の写本を作成して乾隆帝に献上した。

この時乾隆帝に献上されたモンゴル語の『蒙古源流』の写本（『清吉斯汗世系記載档案』）は現在所在不明になっているが、乾隆帝がこの写本の満州語訳および漢訳を命じた際に、このモンゴル語写本から「故宮精鈔本」あるいは「内府鈔本」と呼ばれるモンゴル語の写本が作られた。このモンゴル語写本から満州語訳写本が作られ、次にこの満州語訳写本から漢訳写本の作成が開始され、乾隆42（1777）年に完成した。

さらに、この蒙・満・漢三か国語版の「故宮精鈔本」は、記述に修正や削除を行った上で、武英殿で木版本として刊行された。これを「殿本」という。この時、漢訳本の書名は、満州語訳本の書名から直訳されて『額訥特珂克土伯特蒙古汗等源流』（インド、チベット、蒙古のカンたちの源流）となった。この「殿本」三か国語版のうち漢訳本の本文は『四庫全書』に収録され、その際に書名が縮められ、かつ、書名の冒頭に「欽定」が付けられて『欽定蒙古源流』となった。この四庫全書本『蒙古源流』は、さらに版本としても刊行され、19世紀の東アジアで広く読まれたようである。

掲出本は、旧幕府引継書のうち幕府没収本の一群の中にあつた漢訳『蒙古源流』の写本であるが、旧蔵者を示す蔵書印も何もなく、いつ誰から没収されたのかも不明である。しかし、他の没収本の多くが渡辺崋山の旧蔵書であることから見て、掲出本も蛮社の獄の起きた天保10（1839）年頃までには日本に伝わつたと思われる。

合本一冊。和装。88、108葉。毎半葉8行。各行18字（冒頭は14～16字）。縦20cm×横13cm。内題および本文は、中国の竹紙と思われる薄い紙に書かれている。内題、外題とも書名は「蒙古源流考」とあり、内題の方には、題名の上に小さく「館抄」という文字が記してある。清朝治下のどこかの「館」（役所）で書写されたものらしい。

掲出本の本文を文淵閣四庫全書本と比較してみると、文淵閣本の冒頭の「提要」が「奏議」に、「按」が「案」に、「乾隆五十四年正月」が「乾隆五十五年七月」になっているなど、本文に異同があるので、両者はそれぞれ違う系統の写本と思われる。

日本に現存する『蒙古源流』の写本は、当館所蔵本以外に7写本が知られている。そのうち宮内庁書陵部、内閣文庫（2写本）、東京都立中央図書館（市村文庫）所蔵の4写本は、いずれも明治期に書写されたもので、題名に『蒙古源流考』の名称が見え、かつ掲出本と同様の本文を有するので、掲出本およびこれら4写本は、同一の祖本にさかのぼる可能性がある。（当館請求記号 寄附14-13）

国立国会図書館の書庫

— 貴重な文化的財産を後世に伝える —



1. はじめに
2. 増え続ける資料
3. 書庫の構造
 - 東京本館（本館）
 - 東京本館（新館）
 - 関西館
 - 国際子ども図書館
4. 書庫の環境
 - 温湿度
 - 照明
 - 塵埃対策
 - 虫害対策
5. 資料に応じた書庫の使いかた
 - 図書
 - 雑誌
 - 新聞
 - 地図
 - 貴重書
 - ネガフィルム
6. 世界の国立図書館の状況
7. おわりに

1. はじめに

国立国会図書館を初めて訪れた方々から、資料はいつでもどこに置いてあるのか、と尋ねられることは少なくありません。現在、国内の多くの図書館は、閲覧室の書架に並んだ資料を利用者が直接手に取る事ができる「開架式」の図書館です。しかし、国立国会図書館では、資料の大部分が書庫に収められており、請求に応じて書庫から運んでくる「閉架式」の利用方法をとっています。閲覧室や専門室に並べられている資料は、蔵書のごく一部なのです。

国立国会図書館は、日本で発行された出版物を納本制度によって広く集めています。これらの資料を永く保存し、後世に伝えていくためには、資料を適切に管理する必要があります。このため、受け入れた資料は直ちに正確な目録を作成し、書庫に大切に保管します。書庫内は、資料の保存に適した環境を保つなど様々な工夫を凝らしています。

書庫は資料の保存を旨とするため、公開していません。職員の出入りも、施設によって、それぞれ鍵やカードなどで厳重に管理しています。三千万点を超える資料を収めた「知識の宝庫」を紙上でご案内します。



集配センターに届いた資料

2. 増え続ける資料

国立国会図書館には、どのくらいの資料があるのでしょうか？ 一日に何冊くらい増え続けているのでしょうか？

最近一〇年間の資料の増加の様子をグラフで表しました(次ページ)。これは東京本館・関西館・国際子ども図書館の三施設で所蔵する第一種資料が対象です。

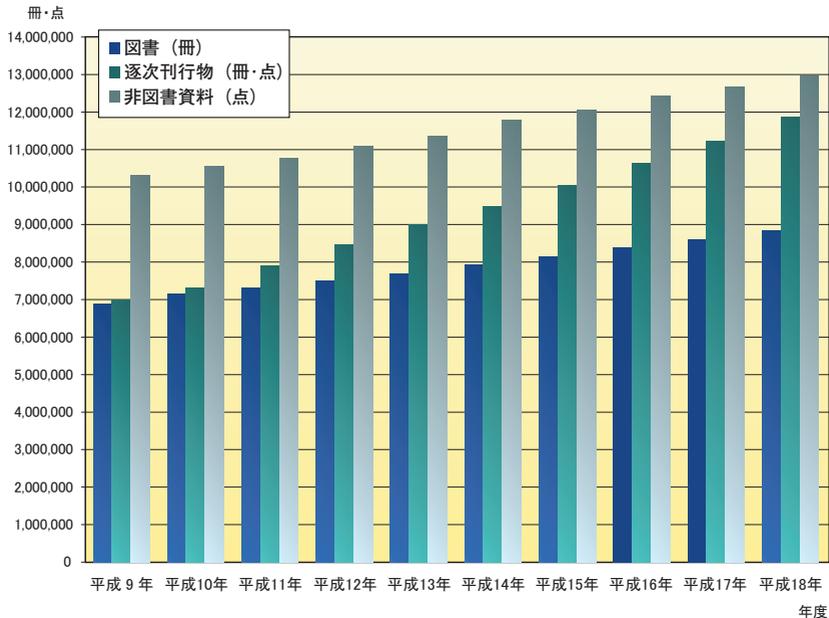
国立国会図書館の資料は様々な方法によって収集されています。その中心となるのは、国立国会図書館法に定められた納本制度によって納入される、日本国内の刊行物です。国立国会図書館は唯一の納本図書館として、我が国で出版された資料を網羅的に収集し、長く後世に残していく役割を担っています。

納本以外の収集方法としては、書店などからの購入(主として外国資料)、内外からの寄贈、外国機関との間の国際交換によるものがおもなものです。

電子出版物の増加に対応して、平成一二年には当館の納本制度に関しても、パッケージ系電子出版物を納入対象とする法規整備が行われました。

このように、保存すべき資料の数と種類は日々増えています。日本語の単行本なら一週間に約二、五〇〇冊、雑誌・新聞なら一日にダンボール約一〇箱分が届きます(写真)。

所蔵数の推移（第一種資料）



※グラフは資料を大きく図書・逐次刊行物・非図書資料の三つに区分してあります。

第一種資料：蔵書として長期に保存し、利用に供することを目的とした資料で、原則として廃棄されることはありません。（これに対して、第一種資料の重複資料で、長期保存を目的とせず、開架閲覧室での閲覧用、対国会サービス用、執務参考用など、特定の目的のために利用される資料のことを第二種資料といいます。）

逐次刊行物：単独で表題を持っている図書に対して、「同一表題の下に年月次を追って継続発行する意図があり、かつ完結を予測できない刊行物」をいい、一般の雑誌のほか、年鑑類や新聞が含まれます。

非図書資料：多種多様な形態のものが含まれます。紙媒体資料の地図、楽譜、文書類、点字資料、博士論文などに加え、マイクロフィルム、マイクロフィッシュなどのマイクロ資料、紙媒体に代わる刊行形態として普及してきたCD-ROMなどの機械可読資料、ビデオカセットテープ、DVD、音楽CDなどの映像・録音資料がおもなものです。点数の上では非図書資料の約3分の2はマイクロ資料であり、その大半は、当館所蔵の図書・逐次刊行物を撮影することにより作製したもので、出版から長い年月を経て傷みやすい状態にある紙の原資料に代えて利用されています。

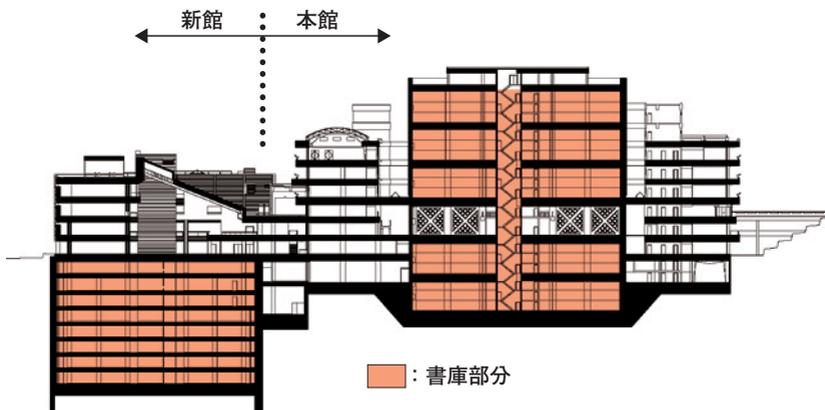
3・書庫の構造

■東京本館（本館）

昭和二三年の当館発足時の庁舎は、旧赤坂離宮（現在の迎賓館）、三宅坂の旧陸軍参謀本部跡（現在の憲政記念館）および上野の旧帝国図書館（現在の国際子ども図書館）に分散していましたが、昭和二四年から現永田町の敷地（旧ドイツ大使館跡）を順次購入し、昭和三六年には第一期工事、昭和四三年には第二期工事が完了し、これにより現在の本館建物の全体が完成しました。

書庫の配置形式は、閲覧室や事務室に対して①中央書庫式、②下部書庫式、③周辺書庫式、④後部書庫式の四種類を基に検討されました。館内の議論や専門家による協議の結果、当館の機能にもっとも適合する米国議会図書館が中央書庫式であり、かつ各局部にとって書庫が近くて均等な条件であるなどの利点が評価され、中央書庫式が採用されることとなりました。

中央に配置された書庫は、一辺四五mの正方形になっており、その周りを事務棟が取り囲んでいます。書庫の構造はコンクリートの床で構成された一階分を鉄骨の床で三層（一部二層）に分割した合計一七層の積層書庫になっています。書架の種類は、図書を収蔵する標準書架の他に特殊書架があります。特殊書架には、支柱の穴に特殊なキャビネット（引出し）を吊った、地図用抽出架（二三ページ）



東京本館断面図



地下8階までの光庭

閉鎖的になりやすい地下ですが、書庫内に地下8階まで届く光庭が設けられ、自然光が各層のガラス窓を通じて届くことで、書庫内で働く人々に安心感を与え、環境向上に寄与しています。また、光庭は各階で形状が違うため、自分がどこにいるかイメージすることができます。

新館は、昭和六十一年に完成しました。新館の書庫は、すべて地下部分に配置され、地下八階で基礎の深さは三〇mにも及んでいます。書庫を地下に配置したことで、年間を通じて外気温度の影響が少なく、省エネルギー対策に優れた、資料の保存にも適した環境と言えます。また、照明を人感センサーによる自動点滅方式としたことも省エネルギーに貢献しています。地下に資料を配置するメリットには、地震による揺れが少ないこともあげられます。デメリットとしては書庫の大敵「浸水」の危険がありますが、地下外壁の外にアスファルト防水を施し、一階の床にも防水が施され地下と地上の両方からの浸水を防いでいます。

■東京本館（新館）
 新館は、昭和六十一年に完成しました。新館の書庫は、すべて地下部分に配置され、地下八階で基礎の深さは三〇mにも及んでいます。書庫を地下に配置したことで、年間を通じて外気温度の影響が少なく、省エネルギー対策に優れた、資料の保存にも適した環境と言えます。また、照明を人感センサーによる自動点滅方式としたことも省エネルギーに貢献しています。地下に資料を配置するメリットには、地震による揺れが少ないこともあげられます。デメリットとしては書庫の大敵「浸水」の危険がありますが、地下外壁の外にアスファルト防水を施し、一階の床にも防水が施され地下と地上の両方からの浸水を防いでいます。

施設規模 (㎡)	東京本館		関西館	国際子ども 図書館
	本館	新館		
敷地面積	29,812		80,481	7,733
床面積	74,911	72,942	59,311	6,671
書庫面積	32,185	45,861	23,926	1,525

【ガス消火設備】

書庫内の消火設備にはガス消火設備が設けられており、スプリンクラーは設置されていません。一番新しく設置された関西館の設備についてご紹介します。関西館書庫内のガス消火には、窒素ガスが採用されています。物が燃え続けるには15%以上の酸素濃度が必要になりますが、窒素ガスを放出することで消火室内の酸素濃度を12~13%まで下げ、それによって、燃焼現象そのものをストップさせ、消火を行います。EPA（米国環境保護局）のデータでは、酸素濃度10%が人体の安全性のボーダーラインとされています。また、オゾン破壊係数=0、地球温暖化係数=0の地球に優しい消火システムでもあります。

新館書庫の書架は、固定書架のほか、に最長約一三mの集密（移動）書架が設置されています。この他に特殊書架として、レコードを保管する音盤架やマイクロ資料を納める電動回転ファイルなどがあります。電動回転ファイルは、ボタン操作で目的の棚が回転し、資料をすばやく取り出すことができます。

書庫内には、さらに部屋として区画されたマイクロ保存庫（二四ページ参照）と貴重書庫（二三ページ参照）があります。貴重書庫には、貴重な古典籍資料や文書資料が保管されています。区画することでさらに温湿度変化の少ない環境を作り出し、書架もナラ合板を使用して最適な保存環境を作り出しています。

■ 関西館

関西館は、平成一〇年に着工し、平成一四年に完成しました。関西館の書庫は、地下二階から地下四階に配置されています。書庫の周囲には、機械室や廊下を配置し、書庫内への浸水を防御しています。地下二階、地下三階には固定書架、地下四階には電動集密書架が設置されています。また、地下四階にはマイクロ資料を効率よく収納する電動



電動回転ファイル

【トイレはどこですか？】

書庫内では、閲覧請求のあった資料をすばやく利用に供するため、資料の整理をするため、日々職員が仕事をしています。でも、トイレはありません。水は資料にとって大敵です。地下でトイレに行きたくなったら、すばやく地上階へ戻ります。



【書籍搬送設備】

東京本館と関西館には、出納サービスのスピードアップと作業負荷軽減の目的で書籍搬送設備があります。書籍搬送設備を大別すると、垂直搬送、水平搬送、ステーション部分に分けられます。垂直搬送設備は、リフト式や循環式などがあります。

水平搬送設備は、東京本館にはベルトコンベア式、関西館には自走式台車システムが採用されています。カウンターや書庫内の各ステーション同士を、垂直搬送設備と水平搬送設備が結び、搬送トレイを運びます。搬送トレイには、ID番号が記憶されていて、検知器が読み込むことでどこにあるか位置情報が管理できます。

■ **国際子ども図書館**
 国際子ども図書館の建物は元々、帝国図書館として地下一階、地上三階建てで中庭を囲む口の字形の約二万㎡の大規模な建物として計画され、明治三九年に建設、昭和四年に増築されましたが、全体のわずか三分の一のみが実現したまぼろしの全体計画となりました（次ページ図）。

その後、帝国図書館から国立図書館に改称し、昭和二四



自動書庫

回転ファイルが設置されています。さらに、地下三階と地下四階の北側を吹き抜けにし、自動書庫が設置されています。

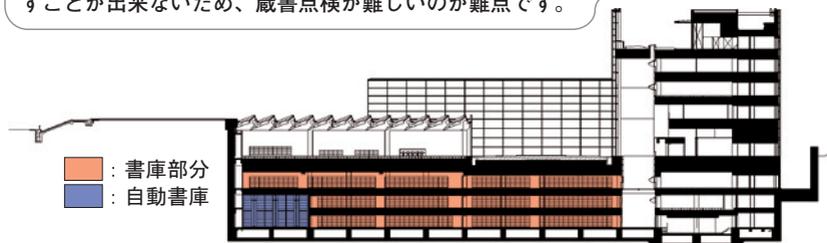
自動書庫は、資料の出納作業を機械化した書庫で、およそ一四〇万冊を収蔵でき、国内最大級のものとなっています。地下四階にはマイクログ保存庫が設けられています（二四ページ参照）。

【自動書庫】

関西館には、コンテナに資料を入れ、クレーンを使って出納する「自動書庫」も導入され、利用頻度の低い資料を効率よく収蔵するのに活用されています。ただし収納資料はバーコードラベルにより1点1点が管理されたものに限られます。この自動書庫は、固定書架と比較して約4倍の収蔵能力を持つとされます。

現在、自動書庫には30～50冊の資料が収納できる半透明コンテナが約28,000ケースあり、その中に和図書約31万冊、洋図書約37,000冊、国内の博士論文約8万件が収蔵されています。

資料には1点ずつにIDナンバーがふられており、各コンテナの番号と結びつけて管理しています。資料を取り出すときは、その資料のIDナンバーを入力し、対応するコンテナを自動で呼び出す仕組みになっています。自動書庫は、書架を見渡すことが出来ないため、蔵書点検が難しいのが難点です。



関西館断面図



まぼろしの全体計画図
色付き部分は実現した建物

【国際子ども図書館の書庫】

児童書として分類された資料は、国際子ども図書館の書庫に配置されます。世界各国の図書や雑誌のほか、紙芝居や音楽・映像資料など様々な形態の資料が収められ、年間に35,000点以上が出納されています。

年に国立国会図書館支部上野図書館となり、建物の改修や一部増築を行いながら既存建物を使用してきました。しかし建物の安全性の不安があり、老朽化が大幅に進行したため、また、新しい機能を付け加えることを実現させるため、平成一四年五月に全面リニューアルオープンしました。旧帝国図書館の建物は、「東京都選定歴史的建造物」にも指定されており、歴史的価値が高い建物であったため、建物の原形保存に努めながら、免震工法を採用した免震レトロフィット工法が採用されました。

現在の書庫部分は、当初も書庫として建設されていましたが、集密書架を設置する強度が足りないことや、現行法規の定める基準を満たす防火性能を確保するために、書庫内部の床、柱などを取り壊し、新たに床を作りなおしています。一階部分は、機械室になりましたが、二階から上は全六層の書庫になっており、四〇万冊の収蔵能力があります。また、空調設備も完備し保存に適した環境が整いました。



明治39年頃の書庫。木製書架手前の鉄骨が床を支えています。当時から施設の狭隘化は大きな課題であり、すでにかなりの資料が入っています。



現在の書庫。限られた床面積でより多くの書架を設けるため、手動の集密書架を使用しています。



国際子ども図書館断面図

■：書庫部分

4・書庫の環境

資料の保存にとって、保管環境を整えることはとても重要です。ここでは、当館の書庫の環境がどうなっているのかご紹介しましょう。

■温湿度

二酸化炭素排出削減のため、当館の閲覧室や事務室では、夏は二八度、冬は一九度に室温が設定されています。しかし、資料の長期保存を主目的とする書庫区域は、これとは異なる環境になっています。あらゆる種類の図書館資料に適した理想的な一つの状態（ある特定の温湿度）というものは、実はありません。とはいえ、資料の種類ごとに異なる温湿度設定をすることも、現状の施設・設備では現実的ではありません。そこで、当館では所蔵資料三千万点のうち約七割を占める紙資料の保存に適した環境を維持することを目指して、一年を通して温度二二度・湿度五五%前後に設定しています。

紙の酸性化等の資料の化学的劣化は、温度が低ければ低いほど進みにくいので、保管するだけならもっと低い温度にすればよいのですが、図書館資料は利用されることが前提です。急激な温度変化は資料保存の大敵であり、あまり閲覧スペースと書庫との温度差が大きくなると、利用されるたびに資料に大きな負担がかかってしまいます。夏場の

閲覧スペースでの利用を考えると、前述の温湿度は現実的な設定といえます。

ただし、書庫の一部に他の部分より低温低湿（一八度二五%）に設定している区域があります。これは、紙の場合よりも乾いた涼しい場所で保管しないと長期保存ができないマイクロフィルムの保存庫です。所蔵資料点数の約二割強を占めるマイクロ資料のすべてを置けるほどのスペースではないので、保存用のマスターネガフィルムだけを、この区域に保管しています。

■照明

書庫では、温湿度だけでなく「照明」も閲覧室や事務室と違っています。光のエネルギーが様々な化学的劣化を促進するので、資料の長期保存のためには、光に当てないことも重要なのです。基本的に書庫は暗くしてあり、必要な時だけ点灯します。さらに、光の中でもっともエネルギーの高い紫外線の影響を減らすため、貴重書の保管場所をはじめ、いくつかの区域で低紫外線タイプの蛍光灯を設置しており、設置区域を徐々に拡大する努力をしています。

■塵埃対策

閉架式の書庫には、資料を塵埃から守る役割もあります。不特定多数の人が出入りすれば、塵埃を多量に持ち込んで書庫を汚すことになります。資料に埃が積もると、埃の成

分が有害な化学変化の原因になったり、積もった埃がカビや虫の温床になって生物による被害の原因になったりします。入庫者を限定することで、埃の害も防いでいるわけです。また、書庫の清掃には、湿度を変動させないために水は使わず、埃を吸着するシートで床を拭くようにしています。

東京本館新館や関西館の書庫内空気に浮遊する塵や埃を取る集塵装置には、『帯電微粒子中性化装置』が設けられています。従来の電気集塵器は、フィルターで採れなかった塵埃の微粒子が電気を帯びて放出されるため、壁や天井、衣服、収納物（本）に付着する現象が強まります。しかし、中性化処理された微粒子であればこの現象は少なく、また、放出された空気内で微粒子同士がくっつきあい、再び入る集塵装置内のフィルターで除去できる大きさになります。

■虫害対策



トラップ

さらに、昨年から、虫の害を受けやすい和紙の資料の多い書庫区域に粘着トラップ（捕虫のための罠）をしかけて、一年間の調査をしています。幸い、トラップにはまだ資料に被害を及ぼす虫はかかっていませんが、モニタリングは続けています。なお、館内では、虫を発見した場合は資料保存担当

部署に連絡し、有害生物の知識のある職員が虫の同定や資料の安全確認をするようにしています。

5. 資料に応じた書庫の使いかた

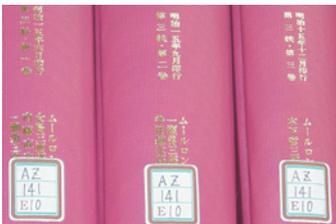
■図書

国立国会図書館で受け入れた資料は、直ちに目録を採り、内容に応じて分類を付けてから書庫に保管されます。分類は日本十進分類（NDC）と国立国会図書館分類（NDLC）がそれぞれつけられます。写真はNDLCで日本の法制史を意味する記号で、同じ分類の図書はまとめて排架されるのです。

現在多くの図書館は、利用者が直接に書庫から資料を手取ることできる「開架式」図書館が主流で、同一の分類に属する図書をまとめて書庫に並べる「分類排架」を行っ



このアルファベットと数字の組み合わせは、東京本館書庫17層の書庫についている見出しです



書庫に並んでいる図書の背表紙に貼られたラベルを見ると、同じアルファベットと数字の組み合わせが書かれているのが分かります。

ています。これによって利用者は、同じテーマについて書かれた図書を見ることができま

す。国立国会図書館は閉架式の図書館ですが、書庫内では分類排架を行っています。国会の図書館として国会のために国政課題に関する調査を行うため、また、国立図書館として、全国の公立図書館や大学図書館などで解決できなかったレファレンスに答えるため、職員が書庫に保管されている資料を基に文献調査を行っています。書庫内を分類排架しておくことで文献調査を進めやすくしているのです。

しかし、分類排架には問題もあります。分類ごとに資料を並べるため、新しく資料が増えることを見越して書架にあらかじめゆとりを持たせておく必要があります。ある分類に属する資料が増えすぎると、他の分類に属する資料も含めて平行に移動し、保管のためのスペースを新しく用意する必要があるのです。このため、分類排架は移動式排架と呼ばれることもあるのですが、東京本館にある図書の書庫は、一層ごとに五〇万冊を超える図書が保管されるため、資料の移動作業にはたいへんなエネルギーを必要とします。

国立国会図書館の前身にあたる帝国図書館では、書庫のスペースを節約するため、分類排架ではなく、資料の大きさを揃えて図書館に受け入れた順に並べる「固定排架」を行っていました。帝国図書館から引き継がれた明治、大正、昭和初期の図書は、現在でも固定排架されています。

【書庫スペースを捻出する努力】

東京本館の本館書庫は、1層から17層までの層に分かれています。例えば、そのうちのある層では、過去の一定期間、分類排架に従って図書が満杯になるまで排架されましたが、現在ではもう資料の増加はありません。この場合、分類記号間には、ある程度のすき間ができます。こうしたすき間を詰めて資料を排架し直して一定の空き書架を捻出することで、新しい資料群を配置できる場合があります。

また、サイズの小さな図書の多い書架については、5段から6段へ棚の吊り替えをして排架し直すなど、より有効なスペースの確保に努めています。

■ 雑誌

雑誌は、同一のタイトルのもとで定期的に発行されるものですから、資料の増えるペースに合わせた工夫をしています。あるタイトルの置き場が窮屈になつてしまった時、その都度隣のタイトルの置き場をずらし、その隣もずらし、ということを繰り返すのは大変です。そのため、一定の期間を区切ってタイトルごとの資料の増え方を予測し、五年後なり一〇年後に書架がちょうど二杯になるように、置き場を設定する「割付け」をします。

雑誌の場合、散逸したり破損したりすることを防ぐため、資料ごとの特性に合わせ、何冊かまとめた適切な単位で順



新聞書架

■新聞

次合冊製本して管理するため、これに合わせ、製本前の雑誌の書架と製本済み雑誌の書架を区分して割り付けけるという工夫がされています。書架の割付けは、雑誌を利用可能な状態で保管するためには必要なことです。ただし、算定は見込みで行うので、割付けどおりに書架が埋まらないことがある一方で、資料があふれてしまうこともあります。したがって、適切な保管のためには、割付けに一定の余裕がなければならず、一万冊を納めるのに一万冊分の長さの書架だけあればよい、ということでは必ずしもありません。

新聞は、利用によって傷みが生じ易いため、古いものから順にマイクロフィルムを複製して利用に供しています。主要な新聞の新しいものは、バインダーに綴じて新聞資料室で提供していますが、同じ新聞を保存用としてもう一セット所蔵し、一面の大きさのまま製本したり保存箱に入れたりして書庫に保管しています。原紙は、一二段に棚板を吊った書架に、合冊製本

【集密書架】

集密書架は、東京本館では新館書庫（昭和61年）から、関西館書庫では当初から導入されています。面積あたりの収蔵量では、集密書架は固定書架のおよそ2倍と言われます。

集密書架は、固定書架に比べ資料に到達するまでに時間がかかり、近接した複数の書架列を同時に探すには不自由です。しかし、利用頻度の低い資料群の排架場所に当てれば、不便は最小限で済みます。

これに対して固定書架は、資料の出し入れに便利です。東京の新館書庫と関西館書庫では、このように資料群の特質をふまえて固定書架と集密書架をうまく活用しています。書架の連数の比率で見ると、東京の新館書庫、関西館書庫とも、集密書架が全体の約50%を占めています。また、開架資料の比率の高い国際子ども図書館では、書庫内の書架は集密書架を採用しています。





地図用抽出架 (右下も)

後、一段に二冊積むのが原則になっています。資料を利用できる状態で保存していくためには、積み過ぎは避けなくてはなりません。

マイクロフィルムを作製した原紙は、原則として出納されることはないため、書架と書架の間を詰め、資料を取り出すために必要な部分を動かして開けることのできる集密書架を用いることで、書庫のスペースを節約しています。

■地図

当館では一枚ものの地図を約四五万枚所蔵しており、それらは書庫内の専用キャビネットに地域・主題ごとに分類され、保管されています。キャビネットは一台が一五段または二一段の引出し式になっていて、地図はその引出しの



中に広げて納められています。この引出しには、入れるだけであれば一段に一〇〇枚の地図を重ねて入れられます。しかし、その中から請求に応じて一枚を抜き出し、返却されたらまた元に戻す、という日々の出納作業を行うには、一〇〇枚積んだ状態では効率が悪く、地図が破損するおそれも大きいのです。

また、地図と一口に言っても、さまざまな形・大きさのものがあり、効率的な収納と利用の両方を実現するためどこで折り合うか、苦勞するところです。現在は、一段の収納枚数を四〇枚程度を目途に再配置を進めています。

■貴重書

貴重書に指定された資料は、壁、床、天井にヒノキの合板を張った貴重書庫に収められています。資料はナラの合板でできた書棚に横置きされ、木製のブックトラックを用いて出



貴重書庫



納されます。貴重書庫の中の温度や湿度は他の書庫と同じですが、壁と気密扉で仕切られ、扉を開けても通路から塵埃が入らないよう気圧が高く保たれており、いわば書庫の中に設けられた書庫といえます。照明は低紫外線タイプのものを使用しています。また、資料を害する虫への対策として、とくに防虫香を使用し、粘着トラップを置いてモニタリングを行っています（一八ページ、「館内スコープ」もご覧ください）。

■ネガフィルム

劣化図書など保存上の扱いに注意を要する資料は、マイクロ化を進めています。またおもな新聞については、昭和二八年から、日本新聞協会（現在は日本新聞教育文化財団）との契約に基づいて、マイクロ化を行っています。また、米国の国立公文書館の所蔵する日本占領期のGHQ文書など、外国の機関が所蔵する資料をマイクロ化して収集しています。マイクロ化された資料については、原則として原資料の閲覧は不可とし、マイクロにより閲覧をしていただいています。これらのマイクロフィルムのマスターネガは、劣化を防ぐため、通常の書庫より低温低湿のマイクロ保存庫に収められています。

【マイクロ保存庫】

「マイクロ保存庫」は、東京本館新館書庫の地下7階と、関西館書庫地下4階にあり、庫内は専用の空調により温度18度、湿度25%に保たれています。

平成2年に古いマスターネガの一部に劣化が発生したのを契機に、平成5年2月、東京の新館書庫に、マスターネガを適切な環境で保管するためのマイクロ保存庫が設置されました。平成14年に完成した関西館書庫には、東京の3倍以上の収蔵能力を持つマイクロ保存庫が設置されたため、これまで2回にわたり、東京から関西館への移送を実施しています。

6. 世界の国立図書館の状況

ここで少し、諸外国の例を見ましましょう。

世界の多くの国立図書館は、納本制度などにより、その国で出版された出版物を網羅的に収集し、蓄積・保存して後世の人々に伝える責務を負っています。また、国の中央図書館や大規模調査研究図書館として、外国資料の収集・保存にも努めています。常に増え続ける蔵書を保管するため、書庫の増設は欠かせません。諸外国の国立図書館でも、資料を安全かつ効率的に収納するために、様々な工夫をこ

らした書庫を建設しています。

米国議会図書館（LC）では、本館のあるワシントンDCから約四八km離れたフォート・ミードに、陸軍軍用地の一部払い下げを受け、五〇年間分の増加資料を収蔵可能な書庫を建設しています。あまり使われない資料を良好な保存環境で保管することが目的です。書庫タイプは、北米の大学図書館などで一九八〇年代から採用されている、「ハーバードモデル」と呼ばれるもので、一階建ての倉庫型の書庫に高さ九mほどの書架を設置し、資料はサイズ別に箱詰めにして納架し、フォークリフトを使用して出納します。

LCでは、最初のモジュール（棟）が完成した二〇〇二年から、何年かおきに建設を繰り返して、二〇二五年までに全部で一三モジュールの書庫を作る予定です。紙資料は湿度一〇度三〇%、マイクロ資料のための超低温保管庫ではマイナス三・九度二五%という保存環境を用意しています。ハーバードモデルの書庫は、オーストラリア国立図書館や、フランス国立図書館のマルヌラバレー保管庫、フィンランド国立図書館等でも採用されています。

LCは、ヴァージニア州カルペパーにも、映画フィルムやレコード、CDやDVDなどの音楽映像資料のための書庫を建設しました。国立音声映像保存センター（NAVC）と呼ばれるこの施設は、単に資料を保管するだけでなく、デジタル化などの保存対策や保存技術の調査研究も行う、総合的な資料保存センターです。

人間が活動するにふさわしい環境と、資料を安全に保管し、少しでも延命させるための環境は異なります。書庫に立ち入る機会が少なければ、より「資料向き」な書庫を建設できます。英国図書館がヨークシャーのボストンスパに建設中の新書庫の特色は、低酸素型の書庫である点です。気密性を高めた構造で、窒素を注入して酸素濃度を一五%（通常は二一%）にします。火災防止や、資料の酸化防止になります。低酸素型書庫の採用はまだ珍しく、衣料メーカーの布地保管用低酸素型倉庫なども参考にしたそうです。新書庫は、一階建てで二つの防災区分に分かれた倉庫型です。高さ二mの高書架の自動書庫で、窓もなく普段の書庫内は真つ暗です。書庫内に人が入るのは点検や修理の時だけになります。

資料にふさわしい環境を維持するのはなかなか大変です。ノルウェー国立図書館のラナ支部の岩山にある洞窟書庫は、天然の環境を上手く利用して、湿度調節をするだけで理想的な保存環境を得ています。この書庫は、モイラナの山中にあり、スペースが必要になる都度山を掘削して作っています。国立図書館ではありませんが、イギリスの国立公文書館でも、かつての塩鉱を文書保管庫として活用しています。

ほかの国立図書館でも、何年かおきに書庫の増設が続いています。次ページ表は、近年の諸外国の国立図書館における書庫建設や建設計画例です。

〈表〉世界の国立図書館の近年の書庫建設・計画例

図書館名	近年の書庫建設・計画	図書館の規模・特色等
米国議会図書館 (LC)	フォートミード遠隔保管庫。 2000年建設開始、2025年全13モジュール完成予定。今後50年間分収蔵可。第1・2モジュールは建設済みで図書、地図等380万冊収蔵可。建設中の第3・4モジュールは計3,200万点(写本1,000万点を含む)、低温のフィルム保管庫にマイクロ資料700万点収蔵可。1日2回本館に配送。	納本図書館。蔵書数は13,400万点(うち図書・印刷物は3,200万冊)、書架の長さにして853km。 毎日1万点受入。
	国立音声映像保存センター (NAVCC) 2007年春完成。LCの映画放送録音物部の所管資料を保管し、保存対策・利用提供も行う。25年分、400万点収蔵可。デジタル化した資料は、光ファイバーによりワシントンDCの閲覧室で利用可能。バックカード財団の援助を受け建設。	LCの保管する音楽録音映像資料は900万点を超える。初期の映画フィルム等、貴重な資料も数多く所蔵している。
英国図書館	新書庫建設計画 (Additional Storage Programme) により、低酸素型(酸素15%)、高書架(高さ12m)の倉庫型自動書庫を建設中。2008年完成、2010年稼働予定。262km分の書架に2022年までの増加分700万点を収蔵可能。利用頻度が低～中の資料を収蔵予定。書庫内環境は、英国国家規格BS 5454 (2000)に従う。温度16度、湿度52.5%。	納本図書館。蔵書数99,450万点(切手等も含む)、書架の長さ624km。毎年300万点、12.5kmずつ増加。ロンドンのセントパンクラス館とヨークのポストンスバ館等からなる。英国の年間紙出版物は過去10年間で50%増加している。
フランス国立図書館	1996年のミッテラン館開館時に、書架395km分の高層階の書庫4棟を建設。ほかに、パリから30kmのマルヌラレーには、300万冊規模のハーバードモデルの書庫もあり、資料保存技術センターも併設。	納本図書館。蔵書数3,318万点、書架の長さ2,670km(マイクロ資料以外では520km)。毎年3kmずつ増加。
中国国家図書館	国家図書館第二期プロジェクトにより、本館建物の北側に新館を建設中。地下2-3階部分が収蔵能力1,200-1,400万冊の書庫。2008年北京オリンピック前に完成予定。	納本図書館。蔵書数2,500万冊(2005年末)、年間62.5万冊ずつ増加。
韓国国立中央図書館	現在の書庫が2008年に満杯になるため、国立デジタル図書館の一環として、非図書・電子資料、電子化済みの紙資料など1,200万冊の収蔵能力を持つ書庫を2005年から建築開始。	納本図書館。蔵書数634万冊。
オーストラリア国立図書館	キャンベラ市内の本館から12km離れたヒューム地区に年に新書庫完成。56km分の書架に2013年までの資料を収蔵可能。ハーバードモデル。2013年に再拡張予定。	納本図書館。蔵書数900万点(うち図書は290万冊)。毎年書架にして3kmずつ増加。
ドイツ国立図書館	収蔵能力が限界に達し、ベルリンの音楽図書館の統合も控えるライプツィヒ館が2005年から拡張工事に着手。面積の65%が書庫棟の増設分で、今後20年分の資料を収蔵可能。	納本図書館。フランクフルト、ライプツィヒ、ベルリンの音楽図書館の3館で構成。蔵書数2,290万点、書架の長さ530km(ベルリンを除く)。毎年69万点、10kmずつ増加。
オランダ王立図書館	2005年に新書庫を建設。書架50km分の図書、新聞・雑誌を収蔵可能。	納本図書館*。蔵書数350万点。書架の長さ68km。納本資料は毎年17万9,000点ずつ増加(うち12万点は電子資料)。

* 出版社との契約に基づいて納本

〈出所〉各国立図書館のホームページ・年報、その他会議報告や記事、当館職員の出張報告等から。

7. おわりに

当館では、書庫に関する計画を五年ごとに見直すことにしています。平成一九年度からの五年間の書庫計画策定の材料とするために、平成一七年一月から、東京本館と関西館で書庫調査を実施して、書庫の使用状況に関するデータを集め、分析しました。

その結果、東京本館と関西館の書庫を一体として考えた場合には、平成一九年度からの五年間の書庫計画期間中に満杯状態にまでは至らないものの、現在の配置のままでは、東京本館、特にそのうちの本館書庫で、書庫スペースの狭隘化がかなり進むことがわかりました。

このため、今年三月に策定した計画では、
 ・東西の書庫を一体のものとして把握し、東西書庫の排架率の平準化を目指すこと
 ・そのため、今計画期間中に、東京本館から関西館への資料移送を実施すること
 を盛り込みました。

今後も日々資料は増え続けます。その資料を利用者に提供しながら未来に遺していくために、書庫の増設に向けた検討も必要です。

参観のご案内

国立国会図書館では、施設や機能をみなさまに知っていただくために、参観（見学）を行っています。参観は事前予約制です。それぞれの施設で所要時間や案内人数等が異なります。詳細は各施設へ直接お問い合わせください。ホームページに施設ごとの詳細な案内を掲載しています。

東京本館

資料提供部利用者サービス企画課 03-3581-2331（内線26111）

< <http://www.ndl.go.jp/jp/service/tokyo/visit.html> >

関西館

総務課総務係 0774-98-1224（直通）

< <http://www.ndl.go.jp/jp/service/kansai/guide/visit.html> >

国際子ども図書館

企画協力課 03-3827-2053（代表）

< <http://www.kodomo.go.jp/info/tour/> >

*なお、施設により当日申込み可能なツアーもご用意しています。

書庫を紙上で訪問していただいていたかができましたか。国立国会図書館では、貴重な文化的財産である資料を未来の世代にも伝えるために、細心の注意を払って管理・保存しています。利用と保存の両方を実現するため、今後も様々な工夫と努力を重ねて行きたいと考えています。

巷では、明治・大正時代の資料を紹介した「近代デジタルライブラリー」が人気を博していますが、「貴重書画像データベース」も当然ご覧になったことは？何？ありませんか？当館では江戸時代以前の和古書（くずし字の巻物や冊子：時代劇によく出てきますね）も数多く所蔵しているのを忘れてはいけません。

これらに加えて清代以前の漢籍・朝鮮本、一八三〇年以前に刊行された洋古書も合わせた約三〇万冊の原資料、そのほか貴重書画像データベースのデータ元であるカラーフィルム約四万六千枚が、古典籍課所管の書庫に収められています。

館内すべての資料について言えますが、特に傷みやすく、代替のきかない古典籍原資料については、その管理に格別の注意が必要です。当課では開室時間中も資料の出納を一時間に一度にするなど、資料の保護には気配りをしていきますが、書庫内でも保管係を中心に、日々様々な努力をしています。

例えば、毎日二回の貴重書庫内温湿度を当番がノートに記録（それ以外にも、一時間ごとの温湿度データを記録・蓄積するデータロ



ガーを何か所にも置いて、ひと月ごとにパソコンで読み出しまとめてチェック)、毎月一度の休館日に課員総出で行う床掃除（ほこりは立てたくないけれど、水分大敵の書庫内では濡れ雑巾はダメなので、クイックルワイパー登場）、害虫調査プロジェクトによる二週に一度の害虫トラップ観察（全部で一四〇個！）…。さらに極力外部のほこりを避ける

ため、外履きの靴は脱ぎ、書庫用スリッパに履き替えることにしています。

何だか、私たちが書庫の中で外界とは無関係の生活を送っていると思われそうですが、湿度の上がり具合から高温多湿の夏の訪れを、床が増えるセーターの綿ほりから忍び寄る冬の気配をというように、書庫の中でもさまざまな季節感を味わっています。

そんなこんなで、低紫外線タイプの蛍光灯のもと、今日も私たちは、絵巻物の姫君たちに妙な虫がつかぬよう、錦絵の二枚目役者の顔がカビで汚れぬよう、美しい書庫内環境の維持に余念がありません。

（主題情報部古典籍課

しかし事務机は見せられぬ課員X）

常設展示のお知らせ

第一五〇回 近代日本と「国語」

平成一九年一〇月一八日（木）から

一二月一八日（火）まで

於 本館二階第一閲覧室前（東京本館）

現在、私たちは「国語」である日本語を話し、漢字や仮名文字を使って文章を書いています。学校では、共通の言葉遣いによる読み書きを習います。

今日では当然のようなこの「国語」の在り方ですが、ここに至るまでの道のりは平坦なものではありませんでした。

近代化が国家の急務であった明治時代、地域ごと階層ごとに異なる話し言葉や、難しい漢文訓読体が主流の書き言葉をあらため、国民全員が使うことのできる「国語」の制定が求められました。以来、「国語」をどうするべきか、さまざまな議論が繰り返げられることとなります。

第一五〇回常設展示では、明治から第二次世界大戦後まで、「国語」が形成されてきた過程をたどりませう。

平成一九年度図書館員のための利用ガイダンスの開催

平成一九年七月一八日（水）、標記ガイダンスを東京本館大会議室で開催した。

このガイダンスは、各種図書館の協力業務担当者で当館の図書館へのサービスの利用経験が浅い職員に対し、各サービスへの理解を深め、より効率的な利用を促進することを目的として、平成一四年度から実施している。今回は二年ぶりの開催で、公共図書館一九名、大学図書館一八名、専門図書館四名、計四一機関四名の参加があった。

当日は、石川武敏資料提供部利用者サービス企画課長による開会あいさつの後、各サービスの担当者が説明を行った。NDL-OPACによる当館所蔵資料の検索から複写・図書館間貸出し等の申込みまでの一連の流れについて、当館へレファレンス・サービスを申し込む際の手順、利用上の注意点、またレファレンス・サービスを活用できる基本ツールについても案内した。参加者には各人一台ずつ端末を用意し、実際に操作を行った。その後、閲覧室や書庫を見学し、最後に質疑応答を行ってガイダンスを終了した。

終了後のアンケートでは、当館の図書館サービスについて、基本的な事項から網羅的に理解できたという感想が多く、「今まで知らなかったNDL-OPACの機能や、より便利な使い方がわかり参考になった」、「依頼したサービスの作業の流れがよくわかった」、「国立国会図書館ホームページ上のレファレンス・ツールを知ることができたので、業務に役立てたい」といった感想があり、おおむね好評であった。

（関西館図書館協力課）



第一五回納本制度審議会および 第六回納本制度審議会代償金部会の開催について

平成一九年七月四日、国立国会図書館（東京本館）において、第一五回納本制度審議会および第六回納本制度審議会代償金部会が開催された。

納本制度審議会は、国立国会図書館法に規定する納本制度の改善およびその適正な運用に資することを目的として設置されている。その任務は、国立国会図書館長の諮問に応じ、納本制度に関する重要事項および納入出版物代償金（以下「代償金」という。）の額に関する事項を調査審議すること、これらの事項に関し、館長に意見を述べることである。このうち、代償金の額に関する事項を担当させるため、代償金部会が常設されている。

平成一九年五月三十一日をもって委員の任期が満了したことを受け、同年六月一日付けで、同審議会設置（平成二一年）以来五期目となる今期委員の委嘱と代償金部会に所属する委員の指名が行われた。今回の会議は、任期が改まったことに伴い、会長・部会長の選出等、会の構成を決定する必要があることなどから開催されたものであり、諮問はなかった。



一 第一五回納本制度審議会の概要

（一）委員の委嘱および代償金部会所属委員の指名の報告

平成一九年六月一日付けで、一一名の委員が委嘱された。このうちの一〇名は、前期からの再任である。その後、七月一日付けで、委員一名の交代があった。

今回の会議には、過半数を超える八名の委員が出席した。

なお、一一名の委員のうち七名が館長により代償金部会所属委員に指名されている。

現在の委員は、後掲の名簿を参照されたい。

（二）会長の選出および会長代理の指名

委員の互選により、衛藤藩吉委員が会長に選出された。その後、衛藤会長により、公文俊平委員が会長代理に指名された。

（三）事務局からの報告等

館長の長尾真からのあいさつに引き続き、平成一八年度出版物納入状況、平成一九年度代償金

予算および平成一八年度代償金支出実績について、事務局から報告を行った。

当館への出版物の納入率について委員から質問があり、事務局から、出版物の点数の総体を把握することが困難である等の理由からこれまで本格的な調査をしてこなかったが、実態を確認できる出版物について調査中である旨回答した。このほか、代償金の予算、支出実績等に関して、委員から質問および意見があった。

次回の審議会の日程については、現在のとこの諮問がないため未定であるが、会長の判断により、必要に応じて開催されることとなる。

なお、納本制度審議会の議事録は、当館ホームページ「国立国会図書館について」―「審議会・納本制度審議会」(http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/deposit_council_book.html)に掲載されている。

二 第六回代償金部会の概要

一の納本制度審議会の終了後、第六回代償金部会が、六名の委員の出席を得て開催された。

部会所属委員の互選により、紋谷暢男委員が部会長に選出された。続いて、紋谷部会長により、合庭惇委員が部会長代理に指名された。そ

の後、パッケージ系電子出版物の代償金額のあり方、代償金予算の執行などに関して意見交換等が行われた。

納本制度審議会事務局（国立国会図書館収集部）

納本制度審議会委員名簿（平成19年7月4日現在）（五十音順）

会 長

衛藤 藩吉（東京大学名誉教授）

会長代理

公文 俊平（多摩大学情報社会学研究所所長）

委 員

合庭 惇（国際日本文化研究センター教授）

石坂 敬一（社団法人日本レコード協会会長）

北村 正任（社団法人日本新聞協会会長）

小峰 紀雄（社団法人日本書籍出版協会理事長）

清水 勲（帝京平成大学現代ライフ学部教授）

村松 邦彦（社団法人日本雑誌協会理事長）

紋谷 暢男（成蹊大学法科大学院教授）

山崎 厚男（社団法人日本出版取次協会会長）

山本 隆司（東京大学大学院法学政治学研究科教授）（11名）

代償金部会所属委員

部 会 長

紋谷 暢男

部会長代理

合庭 惇

石坂 敬一

小峰 紀雄

清水 勲

村松 邦彦

山本 隆司

（7名）



中国国家図書館で過ごした三か月

～中国での在外研究を終えて～

清水 扶美子

当館は、一九八一年から中国国家図書館（以下NLC）との間で、交互に職員五名が相手館を訪問する形の業務交流を行っている。二〇〇六年を例にとると、NLCより張玉輝副館長を始めとする計五名の職員が来日、東京本館および関西館を訪問するとともに、「ウェブサイトを通じた図書館サービス」をテーマに、日中双方からの報告を行った（本誌五五一（二〇〇七年二月）号参照）。

一九九九年に取り交わした「国立国会図書館と中国国家図書館との交流・協力に関する意向書」（一九九九年五月一〇日付署名、文書交換）では、この業務交流以外に、研修を目的とする職員の派遣についても実現に向けて努力する旨がうたわれており、二〇〇五年九月一日の改定に際して、より具体的な文言が付け加わった。振り返れば、両館の業務交流が始まって以来、研修を目的とする職員の派遣は二〇年前のただ一度にとどまっており、この機会にぜひ二度目の派遣を実現させようという機運が双方で高まった。そうしたなか、関西館アジア情報課で中国語資料の選書・整理を担当している筆者にその機会が与えられ、二〇〇六年二月から二〇〇七年三月初頭にかけて、NLCにて在

外研究という形で業務研修を受けた。研修においては、現在の担当業務と関連の深い、図書を選書・整理を行う図書採選編目部および雑誌・新聞の選書・整理を行う報刊資料部での実習を中心とし、その他の部署でのヒアリングも行った。また、研修の合間には他の図書館にも見学に赴いた。見学の概要については、拙稿「中国での在外研究を終えて」^{*}（『アジア情報室通報』五巻二号（二〇〇七・六））を参照いただきたい。ここでは、NLCの業務について、知見を広めることのできた三か月を振り返ってみたい。

■図書採選編目部での実習

まずは、一二月五日から、図書採選編目部で実務研修を受けた。図書採選編目部には一四の組（日本の係に相当する）があり、今回はそのうち日本語・韓国語・アラビア語図書の選書・書誌作成を行う東文図書採選編組と、中国語図書の書誌作成を行う中文書目データ組で研修を受けた。

現在NLCでは、ALEPH500¹⁾とEx Libris社のパッケージシステムを使用しており、発注作業から受入れ、書誌作成、製本にいたるまで、またあらゆる言語資料の目録





中文書目データ組の事務室

二週間後、今度は中文書目データ組で研修を受けた。教わることはやはり書誌作成と分類付与なのだが、こちらは国内資料であるため、書誌に摘要を入れることになっていて、摘要は、資料の概要を前書き等から探し出して、百字程度で記載する。概要が見つからないときは、目次の単語等をうまく組み合わせさせて文を作る。

作成についても、すべてこのシステムで処理されている。研修は、それぞれの組で実際にシステムを使っての書誌作成および分類を行った。

東文図書採編組における日本語図書の書誌作成は、主にNACSIS-CATのデータをダウンロードして目録を作成する方法が用いられている。研修では、ダウンロード後に注記や著者標目を書き込んだり、図版や索引の有無をコードで入力したりといった作業を行った。タグのCATが主タイトル、CATがサブタイトル、CATが出版情報など、JAPAN/MARCとはフィールドが違っており、最初は多少戸惑った。ある程度慣れてきたところで、分類付与の研修に移った。分類をする際には、まずNACSIS-CAT参加館が付与している日本十進分類法(NDC)を参照して、どの分類番号が付与されているか確認し、その後、『中国図書館分類法 第4版』(中国図書館分類法編集委員会編、北京図書館出版社 一九九九)と対照して、対応する分類番号を付与するという方法が採られていた。

書誌作成の際に使う件名表(中国では「分類主題詞表」という)は電子版があり、全国の図書館が共有している。NLCに限っては、必要と思われる件名を随意に追加することができるが、一般の図書館が件名を追加したい場合は、NLC内に事務所がある分類法詞表組に申告が必要である。詞表組は、場合によっては専門家も加えた修訂組に限り、追加の可否を決定する。

■古籍館での研修

年が明けて、一月四日より文津街(一九八七年に現在の白石橋に移転するまで、NLC本館があつた土地)にある古籍館で四日間の研修を受けた。古籍館は清代から一九四九年までの普通古籍(善本には該当しない古籍)や、一九四九年以降の地方誌を所蔵している。地方誌や家譜を担当する国情資料組で、地方誌の書誌作成業務の実習を受けたほか、各部署を回って所蔵資料や業務の説明を聞いた。書誌作成にあたっては、通常の中国語図書と違って摘要を入れず、件名は件名表に縛られない非コントロール件名標目のフィールド(タグ:610)に、必要に応じて書き込む。館内には、古籍や地方誌の閲覧室以外に、児童書閲覧室、障害者閲覧室



中文期刊組での作業の様子

も設けられている。また、地方誌についてはデジタル化が進められており、スキヤニングし終わったものはお話を聞いた時点で四千種（二四〇万ページ）あり、うち二、八〇〇種をNLICのホームページ（<http://res1.nlc.gov.cn9080/chronic/index.htm>）で公開している。

■各部署での見学・ヒアリング

古籍館から戻ってしばらくは、各部署での見学やヒアリングを行った。

まずは典蔵借閲部を見学した。書庫資料の管理、貸出・閲覧、複写といった業務を行う。書庫の管理は厳しく、書庫担当の約五〇人の職員以外は、職員といえども自由な出入りは許されていない。出納は書庫担当職員が行い、書庫とカウンターの間の運搬に搬送機を利用している。閲覧室は、「外文図書第一閲覧室」（主に日本語・ロシア語の図書）「中文科技書閲覧室」（科技分野の図書）など、言語や分野で部屋が分かれており、それぞれが職員の目が行き届く程度の広さでしつらえてある。

次に、日本では総務部に近い部署である業務処でヒアリングを行った。NLICは、古籍館も含めた全館で約二、五六七万冊を所蔵している。中国語図書は約五六七万冊でそのうち七〇万冊ほどを納本によって入手している。中国での納本制度は一九一六年に始まっており、これまで経過した年数からすると納本による入手の割合が低いよう

に思われる。これは中国には日本の国立国会図書館法に当たる法律がなく、納本制度も国務院（内閣）令にとどまるためである。外国出版物は資料費の八〇%を使って収集しており、そのうち日本語図書には全体の六%ほどである年約八〇〇万元（約一億二千万円）を使っている。（二〇〇六年の資料費は一億三、二〇〇万元（約一九億八千万円）ということだった。）なお、台湾・香港・マカオは納本制度対象外であるため、国内出版物としてではなく、外国出版物として扱われている。

三番目に訪れた参考諮詢部の主要業務は、立法や政策策定への協力、支部図書館への協力、毎年三月に開かれる两会（全国人民代表大会と政治協商会議の全国委員会會議のこと）への資料・情報提供サービスである。政府の指導者層を対象に、世界の歴史や文化、哲学、宗教などについての無料講座も開いている。NLICのバーチャル・レファレンスサービス「網上諮詢台」（<http://202.96.31.16/ncvrd.htm>）を担当しているのもこの部であり、職員二人が交代で対応している。

当館の古籍籍課に当たる善本特蔵部では、敦煌石窟から発見された資料を集めた『敦煌遺書』や、『永樂大典』『趙城金藏』、現存する四庫全書四部のうちのひとつであり、一九一五年にNLICの前身である京師図書館の所蔵となった『文津閣四庫全書』のほか、清代までの古籍善本二七万余冊、一九一〇～一九四九年の新善本（辛亥革

命から解放前までの、革命関連の出版物が対象) 一万三千余件、金石拓片約三二万件などを所管している。専門の学校で教育を受けた職員が修復を行う一方、資料の収集や影印出版、電子化してのホームページ上での公開(西夏文献の目録や画像等が見られる「西夏碎金」<http://res.nlc.gov.cn:9080/wenxian/>など)も行っている。部所管の書庫は、書架のガラスに防紫外線効果のあるものを使用し、湿度一八〜二二度、湿度五〇〜六〇%に保たれている。「敦煌遺書」を納める敦煌遺書特蔵庫では、さらに書架に使う木材を良質の楠木と樟木に限っており、徹底した保存管理がなされていた。

来年完成予定のデジタル図書館の準備室であるデジタル図書館管理処では、二〇〇五年から始めた「天津図書獎」(賞に冠されている文津の名は、以前NLCがあった文津街より採られている。)という企画についての話が印象に残った。これは、前年に出版された自然科学・社会科学分野の図書を対象として、利用者の投票および専門家の審議により、人々の文化的資質の向上や、学術関連の知識の普及への貢献が認められるものを表彰するものである。投票の対象となる図書は出版社・著者の了承を得て電子化し、NLCのホームページ上で無料公開する(二〇〇六年分は<http://wenjinlc.gov.cn/2006/index.jsp>)。閲覧にはAdobe Readerが必要であるが、利用登録等は必要なくどこからでも閲覧可能である。

■報刊資料部での実習

最後に、雑誌・新聞を扱う報刊資料部での実務研修を受けた。

まずは、中国語の雑誌を扱う中文期刊組で、資料受領から受入れ、雑誌作成、製本準備といった一通りの作業を少しずつ体験し、資料についてもヒアリングを行った。NLCの所蔵する中国語雑誌は約一万一千件。納本は三冊で、不足分は購入する。三年を経過した資料は保存用に二冊を製本し、残りは除籍して、他館に寄贈する等適宜処分する。

外国語雑誌を扱う外文期刊組では、主に日本語雑誌について聞いた。現在継続して購入しているものは、約一、一〇〇件である。廃刊誌も含めると、約六、六〇〇件がOPACに登録済みであり、カード目録のものも含めると八千余件所蔵しているとのことであった。受入れに際しては、システムに入力すると共に、日本語入力のできない利用者のためにカード目録も作成・提供している。



古籍館の児童書閲覧室

新聞を担当する報紙組では、通常業務の研修を受けると同時に、「剪報信息服务」や「礼物服務」などの有料サービスについても作業の様子を見学した。前者は、利用者が提示する主題に合わせて、新聞記事のスクラップを作成する

サービス、後者は利用者の希望する紙面を縮小し、ガラス板等にはめ込むなどして、記念品とするサービスである。このように、不足がちな年間予算を補うため、NLCではさまざまな有料サービスが行われている。

視聴覚資料担当の音像資料組では、資料のデジタル化や閲覧室業務の説明を受けた。資料のデジタル化には、ZP-300という、音声と映像を同時に変換できるエンコーダーボードを採用しており、音声と映像を別々に変換しなければならなかった採用前に比べて、随分作業が早くなったとのことであった。閲覧室ではCD・DVD等各種資料が視聴できるほか、VODシステムにより約八〇タイトルの資料を提供している。また、毎日午後から音像視聴室にて、有料でDVD上映会を催しており、日替わりで二〜三タイトルを上映している。

電子信息服务中心では、電子出版物の収集、NLCのホームページの管理、当館のWARPと同様のWICP（ウェブ情報資源の収集と保存実験プロジェクト）などを行っている。また、テーマごとにポータルサイトを作成し提供する「ネットワーク資源導航」も電子信息服务中心の担当で、今年に入って、オープンアクセスの電子新聞・雑誌 (<http://www.nlc.gov.cn/service/others/dianzibaokan.htm>) と図書館関連のポータル (<http://www.nlc.gov.cn/service/others/nlbs/index.htm>) がマップされた。



報刊資料部のみなさんと

■最後に

以上、やや駆け足で三か月間を振り返ってみた。どこの部署でも、自分のつたない中国語に、熱心に耳を傾けてくださり、興味の赴くままの質問にもいねいに回答いただいた。また、他の図書館に見学に行く際には、今回の研修の直接の受入部署である国際交流処の方に、先方との日程調整をしてい

ただいたほか、当日は日本語のできる職員を同行者としていただき、大変ありがたかった。職員の皆さんとは仕事の話以外でも、普段どう過ごしているか、休みの日は、退職後の計画は、などお互いのことをあれこれ話すことができ、自分の中国語の勉強になったと同時に、中国の方のものの感じ方・考え方や、中国での日本・日本人像を肌で感じることができた。最後になったが、この三か月間お世話になったすべての方に、この場を借りてお礼を申し上げます。

しみず ふみこ（関西館アジア情報課）

※1 「アジア情報室ホームページ」「刊行物」も提供して下さい。<http://www.ndi.go.jp/jp/service/kansai/sasia/publication/sasia-pub.htm>

※2 《出版管理条例》（中華人民共和國國務院令第三四三號 國務院二〇〇一年十二月二十五日發布）

※3 VODはVideo On Demandの略。個々の利用者の要求に応じて、映像等を配信するシステムである。

法規の制定

解説

規則第四号は、日本国憲法の改正手続に関する法律（平成十九年法律第五十一号）により、国会法の一部が改正され、第六十七回国会から、両議院に憲法調査会に代えて憲法審査会が置かれることに伴い、調査及び立法考査局政治議会調査室及び政治議会課憲法室の所掌事務について所要の規定の整備を行ったものである。この法規は、第六十七回国会の召集の日である、平成十九年八月七日から施行された。

（規則第四号）

国立国会図書館組織規則の一部を改正する規則

（平成十九年七月二十五日制定）
国立国会図書館組織規則（平成十四年国立国会図書館規則第一号）の一部を次のように改正する。
第十四条第一項中第二号を削り、第三号を第二号とし、第四号から第八号までを一号ず

つ繰り上げる。

第二十九条第三項中「及び第二号」を削る。

附則

この規則は、第六十七回国会の召集の日から施行する。

おもな人事

- 財務事務官 工藤 義明
- 国立国会図書館支部財務省図書館長を命ずる
- 内閣府事務官兼国立国会図書館司書 飯塚 広光
- 国立国会図書館司書の兼任を解く 内閣府事務官 猪又 健夫
- 国立国会図書館司書に兼ねて任命する 財務部支部図書館・協力課勤務を命ずる 財務事務官兼国立国会図書館司書 永井 薫
- 国立国会図書館司書の兼任を解く 財務事務官 山口とみ子
- 国立国会図書館司書に兼ねて任命する 総務部支部図書館・協力課勤務を命ずる 以上平成十九年七月一日付け
- 内閣府事務官 會田 雅人
- 国立国会図書館支部日本学術会議図書館長を命ずる

内閣府事務官 中田 昌和
国立国会図書館支部日本学術会議図書館長を命ずる
総務事務官 吉崎 正弘

国立国会図書館支部総務省図書館長を命ずる
総務事務官 阪本 泰男
国立国会図書館支部総務省図書館長を命ずる
海上保安官 黒田 晃敏
国立国会図書館支部海上保安庁図書館長を命ずる
海上保安官 鈴木 章文

国立国会図書館支部海上保安庁図書館長を命ずる
以上平成十九年七月十日付け

— 当館の最近の動き — NDL news

第一一回資料保存研修の終了

国内の各種図書館等の職員を対象に、平成一九年七月一二日および一三日に当館東京本館研修室において、「第一一回資料保存研修 ―あなたにもできる図書館資料の保護と補修―」を開催し、各日一七名、計三四名の参加を得た。
前回と同様、資料保存に関する基礎的な技術の習得を目的として、ページ破れ等の簡単な補修、パンフレット製本、参加者が



子ども霞が関見学デー

八月二二～二三日、文部科学省主催「子ども霞が関見学デー」の一環として、東京本館で小中学生向け見学・体験プログラムを実施し、九八名（うち子ども五六名）が参加した。

当館の概要説明と新館書庫の見学の後、二二日は資料の保存・修復の現場見学と本作り体験、二三日は和図書目録作成体験および資料管理の現場見学を行った（写真）。

本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、国内で取り次ぎが難しい出版物を紹介いたします。

弥生画帖

弥生人が描いた世界

平成一八年春季特別展

大阪府立弥生文化博物館
編集・発行 〒594-0083 大阪府和泉市池上町四四三 二〇〇六・四 八九頁 A4
(GB115-H47)

弥生時代の人々は、自らの生活を文字に託して書き残すことはなかったようだ。

代わりに、土器や銅鐸、あるいは木片に、様々な絵画を刻んでいる。それらは、子どもの描いた絵の画法との共通点も指摘されているような、対象のイメージをよくとらえたシンプルな線形画である。そのモチーフは、鹿にはじまり、建物や人物、鳥、竜、船など、多岐にわたる。それらは、単なる土器や石器では伝えきれない、当時の人々の生活と世界

観を二千年後の我々に垣間見せてくれる、貴重な情報源なのだ。

こういった弥生絵画は、弥生時代の前期末から中期前半にかけての時期に始まったようである。甕棺や銅鐸に刻まれたものが、北部九州を中心に出土している。

そして、弥生時代中期後半に、弥生絵画は最盛期を迎える。この時期、西は鹿児島県から東は茨城県にまで及ぶ広範囲から、奈良県の唐古・鍵遺跡とその周辺を中心に、四〇〇～五〇〇点もの絵画土器が出土している。こういった絵画は、特に農耕儀礼や祭祀と結び付けられて解釈されているのが特徴的である。しかし、弥生時代後期になると、絵画のモチーフが抽象化、簡略化され、次第に記号へと変化していった。例えば、鹿や竜といった動物も○や△、直線や曲線の組み合わせで表現されている。この記号が、やがて文字の誕生へと繋がっていったという指摘もある。

以上のような変遷をたどった弥生絵画の研究は、唐古・鍵遺跡から鹿の描かれた土器が発見された一九二〇年代以来の歴史を持つ。しかし、その研究史のターニング・ポイントとなったのは、一九八〇年代だったようだ。この時期、日本各地での発掘が進んで出土点数が増えて類例を集めての比較検討が可能になった結果、この分野に関する研究論文が爆

発的に多くなつたのだ。

ここで注目したいのは、その研究方法である。まず中心となつたのは、弥生絵画の持つ意味やその社会的背景を解明しようとするものであつた。すなわち、個別の絵画を、『記紀』などの文献史料や東アジアの絵画資料との比較も視野に入れて分析する手法である。しかし一方で、そういった手法に批判的な、絵画資料を考古資料として厳格に扱う手法も提示されている。すなわち、絵画やそのモチーフの持つ構造の分析を行う手法である。

実際のところ、この両者は研究を進展させる上ではともに不可欠なものであり、これらとどう組み合わせるかを分析手法を確立していくのが今後の課題であろう。けれどもこういった研究方法の問題は、画像資料を扱う学問が共通して直面するものであり、また、研究方法が確立していないからこそ、この分野にはまだ多くの課題が残されていることを示しているとも言えるので、とても興味深い。なぜなら、こういった研究方法の問題は、画像資料を扱う学問が共通して直面するもので、それは同時に、まだまだ研究課題が多くあることを意味するからである。

かくも面白い弥生絵画ばかり一八八点を集めて、二〇〇六年四月二二日から七月二二にかけて大阪府立弥生文化博物館で開催された

春季特別展の図録が、本書である。

その内容は、展示品のカラー写真を画材や構図の違いによって付された見出しなどに分類して簡潔な解説を付す部分と、研究史や鹿や羊のモチーフなどについての論考やエッセーの部分、そして展示目録や参考文献からなる部分に分けられる。しかし、本書を当館で所蔵するこれまでの類似の展示図録や他の資料と比べても、特段に展示資料数が多いわけでも、解説が豊富なわけではない。

本書の特長は、先に紹介したような研究の流れや手法の相違を俯瞰した上で、弥生絵画とその研究成果の全容を一般向けに分かりやすく紹介していることである。そのために本書は、弥生絵画についての概説的な書籍がまだまだ出版されていない現在においては、この分野の恰好の入門書という性格も持っているのである。

(福林 靖博)

財団法人設立50周年史

財団法人設立50周年記念行事準備委員会
財団法人 文化財虫害研究所
(〒160-0022 東京都新宿区新宿二一〇一八
エスケー新宿御苑ビル6F)二〇〇六七
一五六頁 四六倍判 (K6-H159)

本を食べる虫がいる。読者はそういわれて

どんな虫を想像されるだろうか？ 紙などの植物繊維を主食とするシバンムシ、書籍に使われるテンパン糊と紙を好んで食べるシミ、皮革や毛織物・絹などを食べるカツオブシムシなどなど、書籍を保管する上で注意が必要な昆虫は数多い。また、書籍のみならずわが国の文化財の多くは木材を主体としており、それを好む昆虫と日々攻防を繰り返している。仏像もほおっておけばいつのまにか穴だらけ、ということもおこりうるのである。

本書の発行元である(財)文化財虫害研究所は、こうした害虫やカビの防除を目的として戦後つくられた研究機関である。その発端は、岩手県平泉の中尊寺に保存されてきた藤原家三代のご遺体(ミイラ)の総合学術調査である。昭和二五年に実施されたこの調査がきっかけとなり、翌二六年に研究所が設立され、三〇年に財団法人として認可された。今日では、文化財の生物被害防止のため、害虫やカビの調査研究をはじめとして、各種講習会・研修会の実施、虫菌害防除薬剤の認定等を行っている。また「文化財虫菌害防除作業主任者能力認定試験」により生物被害防止に必要な知識を得た人物を認定しており、当館でもこれまで数名の認定者をだしており、その知識は業務の中で生かされている。

本書はこの文化財虫害研究所の財団法人

創立五〇周年を記念して刊行されたものである。ここでは、戦後すぐ、生物劣化に対する知識も方法も乏しかった段階から、今日まで研究所諸氏が苦勞して築き上げてきた生物被害への防除の歴史がづづられている。なかでも、虫・カビ対策の防除法の今昔は、近年の地球環境問題とも関わりがあり興味深い。

文化財に巢食う虫やカビを殺虫・殺菌するために当初はホルマリンによる燻蒸が行われていた。しかしホルマリンは臭気が文化財に強く残るうえ、殺虫効果が少なく、これに代わる方法として臭化メチルと酸化エチレンによる燻蒸が実施されるようになった。この薬剤は殺虫・殺菌効果が高く、しかも文化財にガスが残留しない理想的な薬剤として、近年まで広く日本全国で使用されてきたのである。ところが、この臭化メチルがじつはオゾン層を破壊する物質とわかり、一九九七年モントリオール議定書締約国会議で、二〇〇五年までに臭化メチルの使用が全廃されることが決まった。しかも、臭化メチル・酸化エチレン燻蒸をはじめとする殺虫殺菌薬剤は、そのどれもが人体へ何らかの健康被害をもたらすことも明らかになってきたのである。

こうした流れをうけて、近年注目されているのがIPM（総合的有害生物管理 Integrated Pest Management）という考え

方である。簡単にいえば、地球環境や人体への配慮し、これまでの燻蒸一辺倒の防除法から、薬剤のみに頼らない多角的な対策を立て、予防に努めることをいう。対策の中でもっとも大切なのが日常の目視点検と掃除であるという。当館でも現在、IPMにもとづく有害生物調査を実施中である。

本書ではこの他、学芸員や修復家、保存科学研究者など、研究所の活動に関わりのある二五名の方々が文章を寄せられている。中には虫害ががちり固まった大般若経をすり粉木でたたいて開いたなどの仰天エピソードもあり、どれも堅苦しくなくエッセイとしても楽しめる。

本書からは、日本の文化財を後世に守り伝えるため、人知れず続けられてきた活動が読みとれる。縁の下の力持ちは、見えないところで実に重要な役割を担ってくれているのである。

(宇野 理恵子)

国立国会図書館の編集・刊行物

- レファレンス 六七九号 A 4 九九頁
- 米軍の国内出動
- 農業所得の捕捉率について
- 非核三原則の今日的論点
- アメリカの飲酒運転対策

■自動車関連税制の現状と課題 月刊 一、〇五〇円(日)

レファレンス協同データベース事業調べ
方マニュアルデータ集 データと解説
A 4 一五一、三二頁
一、八九〇円(日)

カレントアウェアネス 二九三号 A 4 三三頁
「システムライブラリアン」の位置づけをめぐって
(ISBN 978-4-8204-0711-9)

■韓国図書館関連法規の最新動向

■中国におけるバーチャルレファレンスサービス

■日本における漫画の保存と利用

▲研究文献レビュー

■子どもへの読書支援と図書館サービス

■学術情報流通と大学図書館の学術情報サービス

季刊 四二〇円(日)
入手のお問い合わせ
(日) 日本図書館協会 〒1033 東京都中央区新富一丁目一四
03-3533-3533(三三三三) 03-3533-3533(三三三三)
特に記載のないものは税込価格です。

メタデータ基準の公表と意見募集のお知らせ

国立国会図書館では、「国立国会図書館電子図書館中期計画2004」(http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/elib_plan2004.html)に基づき、デジタルアーカイブの構築を進めています。このたび、「保存用メタデータ」および「交換用メタデータ」の2つの基準を策定し、ホームページで公表しました。

保存用メタデータとしては、電子情報の長期保存のために使用する「NDLデジタルアーカイブシステム・メタデータスキーマ」を公表しました。NDLデジタルアーカイブシステムは、インターネット情報や当館所蔵資料をデジタル化したコンテンツ等、各種の電子情報を統一的に取り扱い、長期的な保存、利用を保証するシステムです。

交換用メタデータとしては、「国立国会図書館ダブリンコアメタデータ記述要素(DC-NDL)」を公表しました。これは、ネットワーク系電子情報に適用するメタデータ基準を意図して平成13年3月に策定した「国立国会図書館メタデータ記述要素(NDLメタデータ)」の改訂版です。日本国内の図書館と関係機関等における、メタデータの相互運用に資することを目的としています。

メタデータ基準の詳細については、次のページをご覧ください。

○国立国会図書館のメタデータ基準

<http://www.ndl.go.jp/jp/standards/index.html>

保存用メタデータについては、内容をさらに充実したものにするため、メタデータの要素の定義や使用方法を規定した「NDLデジタルアーカイブシステム・メタデータスキーマガイドライン」を対象に、平成19年12月末まで意見募集を行っています。次のページをご覧くださいの上、入力フォームからご意見をお寄せ下さい。ご協力をお願いします。

○NDLデジタルアーカイブシステム・メタデータスキーマについて

<http://www.ndl.go.jp/jp/standards/da/index.html>

第9回図書館総合展に出展します

国立国会図書館は、平成19年11月7日(水)から9日(金)まで、第9回図書館総合展(主催:図書館総合展運営委員会 会場:パシフィコ横浜)に出展します。巨大な書庫を紹介する展示のほか、次の講演会を開催いたします。ぜひご来場ください。

フォーラム

「日本で一番大きい図書館に行ってみた」永江朗氏(ライター)ほか

11月7日(水) 15:30~17:00(先着200名)

プレゼンテーション

「国立国会図書館ホームページから利用できるレファレンス・ツール」

11月8日(木) 14:00~14:40(先着80名)

フォーラム・プレゼンテーションのお申し込み先

総務部総務課広報係までお名前およびご連絡先をお知らせください。

電子メール koho@ndl.go.jp FAX 03-3597-5617

平成19年度アジア情報研修「中国の学術情報を入手する」

平成19年度のアジア情報研修を実施します。この研修は、日本国内の各図書館におけるアジア情報にかかるサービスの向上に資することを目的に実施するものです。

- **日 程** 平成19年11月21日（水）、22日（木）の2日間。
- **場 所** 国立国会図書館関西館第1研修室
- **対 象** 大学図書館、専門図書館および公共図書館等の職員で、原則として業務においてアジアに関連する情報を扱う方（ただし、座席に余裕があれば、その他の方の受講も可能です。）。
- **定 員** 50名（申込み多数の場合は調整させていただきます）。

■ 内容・講師

第1日：11月21日（水）

- 13：10 中国の知的財産権及び中国文献データベース
独立行政法人科学技術振興機構中国総合研究センター長 馬場錬成氏
 - 15：30 中国経済の調査研究及び資料収集
京都大学大学院経済学研究科教授・上海センター長 山本裕美氏
- * 第1日目終了後、18：00から19：00まで、懇親会を予定しています。

第2日：11月22日（木）

- 10：00 中国における電子ジャーナル出版 愛知大学文学部教授 時実象一氏
- 13：00 中国情報検索実習・中国の学術論文をさがす 関西館アジア情報課

* 第2日目終了後、15：20から17：20まで、平成19年度アジア情報関係機関懇談会を開催します。国内のアジア情報関係機関間の交流を図り、国全体としてのアジア情報資源の充実とアジア情報の流通促進に資することを目的に実施するものです。今回は「人材育成と研修」をテーマに国内12機関の報告および懇談を行います。研修参加者のうち希望者が聴講できます。

- **申込方法** 電子メールまたはFAXで、次の事項を明記してお申し込みください。
①氏名、ふりがな ②所属機関、所在地 ③所属部署・職名 ④連絡先電話番号、電子メールアドレス（またはFAX番号） ⑤図書館勤務年数、現在の業務内容、これまで従事したアジア関係業務の内容 ⑥アジア情報関係機関懇談会の聴講希望の有無
- **申込締切** 平成19年10月19日（金）必着。受講の可否については10月24日（水）までに電子メール（またはFAX）でお知らせします。万一、通知がない場合は下記まで至急ご連絡ください。

■ 申込み・問い合わせ先

国立国会図書館関西館アジア情報課
〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3 TEL 0774-98-1371（直通）
FAX 0774-94-9115 電子メール k-azia@ndl.go.jp

国際子ども図書館展示会 「ゆめいろのパレットⅢ－野間国際絵本原画コンクール入賞作品 アジア・アフリカ・ラテンアメリカから」関連講演会のお知らせ

国際子ども図書館展示会「ゆめいろのパレットⅢ－野間国際絵本原画コンクール入賞作品 アジア・アフリカ・ラテンアメリカから」により親しんでいただくため、講演会を行います。展示会、講演会は、いずれも入場無料です。

- 日 時 10月27日(土)14:00～16:00
- 会場 国際子ども図書館 3階ホール
- 講師 エマード・エル＝シャフェイ氏 (エジプト児童文学作家)
- 演題 「エジプトの児童文学と公共図書館－エジプトの読書運動－」
エジプトは1990年代から始まった読書運動により児童書の出版や公共図書館の活動がたいへん活発になっています。会場では国際子ども図書館所蔵のエジプトの児童書も併せて紹介します。
- 対象 中学生以上 *定員100名
- 申込方法 次のいずれかの方法でお申し込みください。
[来館申込み] 国際子ども図書館 3階ホールカウンター
[往復はがき] 〒110-0007 台東区上野公園12-49
国際子ども図書館「10月27日講演会申込み」係
[電子メール] dream@kodomo.go.jp
タイトル・件名欄に「10月27日講演会申込み」とお書きください。
※事前申込制 (先着順)
※往復はがき、電子メールで申し込む場合は、名前 (ふりがな)、年齢、住所、電話番号を記入の上、1通につき、1名様でお申し込みください。
- 問い合わせ先 国立国会図書館国際子ども図書館企画協力課
TEL (03)3827-2053 (代表)

展示会のご案内

- 開催期間 平成19年9月22日(土)～平成20年1月13日(日)
- 休館日 月曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日 (第三水曜日)
- 開催時間 9:30～17:00
- 国際子ども図書館ホームページ：<http://www.kodomo.go.jp/>

表3 国会議員および国会関係者に対する調査業務の状況

依頼者		衆議院議員	参議院議員	前・元議員	衆参事務局・ 衆参法制局等	政党・会派	計	
処理件数		25,919	15,412	1,298	419	1,151	44,199	
種別	分析	3	2	0	0	3	8	
	調査	21,475	12,746	872	407	1,069	36,569	
	文献	4,441	2,664	426	12	79	7,622	
	起草	0	0	0	0	0	0	
調査対象	国内	18,799	11,218	999	67	638	31,721	
	国外	3,728	2,071	134	305	366	6,604	
	内外	3,256	2,033	158	47	136	5,630	
	その他	136	90	7	0	11	244	
回答方法	口頭	電話	590	476	35	52	38	1,191
		面談	313	204	44	9	21	591
		会議参加	25	6	1	6	21	59
	資料	貸出し・ 複写等	21,555	12,743	1,101	191	855	36,445
		調査報告	3,270	1,894	103	161	202	5,630
	文書	文献目録	148	74	14	0	10	246
		翻訳	18	15	0	0	4	37

表4 依頼調査件数の推移

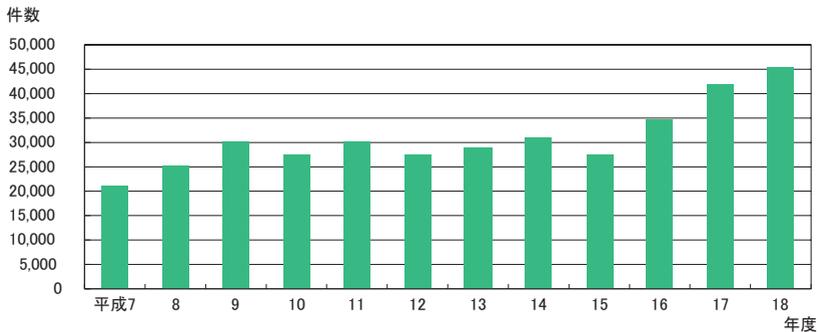


表5 国会分館利用状況

	入館者数 (人)	貸出し		複写 (件)	レファレンス (件)
		件数 (件)	点数 (点)		
国会議員	1,042	3,268	6,246	8,276	5,050
国会関係者	53,324	10,740	21,848	2,865	1,450
計	54,366	14,008	28,094	11,141	6,500

表6 国会への図書館サービス状況

	東京本館			関西館			国際子ども図書館			計
	複写 (件)	貸出し (点)	レファ レンス (件)	複写 (件)	貸出し (点)	レファ レンス (件)	複写 (件)	貸出し (点)	レファ レンス (件)	
国会議員	208	10	4	17	11	8	5	0	0	263
国会関係者	301	5,071	30	0	0	9	39	0	34	5,484
計	509	5,081	34	17	11	17	44	0	34	5,747

会図書館件名標目表」の改訂作業を終了しました。さらにインターネット情報について「国立国会図書館メタデータ記述要素」の改訂に着手したほか、書誌情報およびツール類の作成と提供について電子化を進めました。平成18年度の書誌データ作成件数は、図書194,419件、雑誌4,012件、新聞203件、非図書資料174,364件、雑誌記事索引832,573件などです。平成18年度末現在のOPACによる資料群別書誌データ提供件数一覧は、表2のとおりです。

表2 資料群別書誌データ提供件数

	書誌データ（資料群別）	件数
NDL O P A C	和図書	3,465,403
	洋図書	1,103,902
	和雑誌新聞	130,860
	洋雑誌新聞	56,506
	電子資料	25,036
	和古書・漢籍	65,542
	博士論文	421,192
	地図	150,237
	音楽録音・映像資料	81,748
	蘆原コレクション	67,719
	規格・テクニカルリポート類	1,987,192
	点字図書・録音図書全国総合目録	352,741
	日本占領関係資料*	283,150
	プランゲ文庫*	32,227
	小計	8,223,455
雑誌記事索引	7,864,835	
合計	16,088,290	
アン テ 語 O P A C	図書	207,895
	雑誌	6,749
	新聞	488
	合計	215,132

※データの提供範囲は館内用に限り、インターネット用では提供していない。

国会に対するサービス

当館は、国会議員や国会関係者に対して、国政課題に関する各種の調査および情報提供サービス（立法調査サービス）と、図書館資料の閲覧・貸出し・複写・レファレンスなどのサービス（図書館サービス）を、調査及び立法考査局（以下 調査局）と国会分館を中心に全館的な体制で行っています。

<立法調査サービス>

調査局では、所蔵資料やデータベースを使って、内外の政治・経済・社会などに関する調査や情報サービスを行っています。平成18年度に調査局が行った依頼に基づく調査は44,199件でした。そのうち、国会議員および国会関係者に対する調査の内訳は表3のとおりです。文書による回答も増加傾向にあります。資料による回答が高い比重を占めています。依頼調査の総件数は、10年間におよそ2.2倍に増加しました（表4）。本年度は、前年度に策定した「国会サービスの指針」に基づき、調査及び立法考査局において国会議員等からの依頼調査を適切に分担するための体制を整備・強化しました。また、情報提供においては、「日本法令索引データベース〔明治前期編〕」の提供を開始しました。

<図書館サービス>

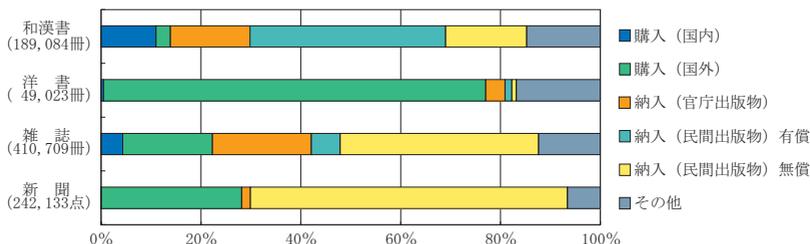
国会議事堂の中央部4階に位置する国会分館は、国政審議に役立つ資料と最新の情報を整備して、国会議員および国会関係者に対して迅速な図書館サービスを提供しています。また、国会分館ホームページを通して、国会分館OPACをはじめとする情報を提供しています。9月からは国会議員を対象に、議員会館への図書や複写物の配送および貸出し資料の回収サービスを開始しました。平成18年度の利用状況は、表5のとおりです。なお、調査局および国会分館以外で行った国会への図書館サービスの状況は、表6のとおりです。

＜収集＞

平成18年度の図書および逐次刊行物の受入数は、和漢書189,084冊、洋書49,023冊、雑誌410,709冊、新聞242,133点でした。非図書資料の受入数は、マイクロフィルム51,332巻、マイクロフィッシュ142,872枚、ビデオディスク（DVD-V、LD等）7,954枚、ビデオカセット1,275巻、レコード（含 音楽CD）16,949枚、光ディスク（CD-ROM、DVD-ROM等）7,253枚等でした。当館では、資料を買う（＝購入）、国内の官庁および民間の出版社から納本される（＝納入）、国内外の個人や団体から寄贈を受ける（＝寄贈）、国際機関や外国政府等との交換により入手する（＝国際交換）などの方法によって収集します。平成18年度は、蔵書構築のあり方についての検討に資するため、所蔵する外国雑誌および日本関係資料についてそれぞれ蔵書評価を行いました。また、国際交換業務の再構築についての検討を進めました。

ここでは、和漢書、洋書、雑誌、新聞の4種類の資料群について、収集方法別の割合を図に示します。

図 資料受入状況



＜電子図書館の蔵書＞

当館ホームページから直接電子媒体の資料が閲覧できる「電子図書館の蔵書」には、貴重書画像データベース、近代デジタルライブラリー、インターネット情報選択的蓄積事業（WARP）があります。また、国際子ども図書館のホームページでは、児童書デジタルライブラリーを提供しています。

貴重書画像データベースは、当館が所蔵する貴重な歴史的文化的財を広く一般に紹介することを目的とした画像データベース、近代デジタルライブラリーは、当館所蔵の明治期・大正期刊行図書の画像データベース、WARPは、ネットワーク系電子情報資源を収集・組織化・蓄積する事業です。児童書デジタルライブラリーは、著作権保護期間の終了した国内児童図書を提供しています。

＜書誌情報の提供＞

当館では、国内で刊行された出版物の記録として『日本全国書誌』を編さんして、ホームページに掲載しています。また、作成した書誌情報を一括して検索することができる目録「国立国会図書館蔵書検索・申込システム（NDL-OPAC）」をホームページで提供しています。本年度は主題アクセスの高度化に向けて継続していた「国立国会

国立国会図書館年報（平成18年度）から

－統計を中心に その1－

国立国会図書館では、前年度の活動報告と基本統計を収録した『国立国会図書館年報』を毎年刊行しています。年報は、国会に提出するとともに、国内の主要な図書館等に配布し、当館ホームページに掲載しています。

ここでは、9月14日に刊行された平成18年度版年報の統計データを中心に、平成18年度における当館の活動状況をご紹介します。本号ではサービス提供を支える蔵書の構築と書誌情報の提供、そして国会に対するサービスについて、次号では行政・司法各部門に対するサービスと一般公衆に対するサービスを中心に取り上げます。

蔵書の構築と書誌情報の提供

<蔵書>

当館では、国内外の資料を幅広く収集し、蔵書の充実に努めています。平成18年度末の当館の蔵書は、図書が8,833,407冊、逐次刊行物が11,848,762点です。それぞれの内訳と非図書資料の所蔵数は表1のとおりです。

表1 資料所蔵統計

(1) 図書（単位 冊）

和	漢	書	6,386,825
洋		書	2,446,582
計			8,833,407

(2) 逐次刊行物

雑誌 (冊)	国内刊行雑誌	5,161,651
	外国刊行雑誌	2,935,863
	計	8,097,514
新聞 (点)	国内刊行新聞	2,576,844
	外国刊行新聞	1,174,404
	計	3,751,248
合計(点)		11,848,762

(3) 非図書資料

マイクロフィルム	(巻)	525,457
マイクロフィッシュ	(枚)	7,795,103
マイクロプリント	(枚)	300,108
ビデオディスク	(枚)	56,615
ビデオカセット	(巻)	13,701
スライド	(枚)	144,950
レコード	(枚)	550,738
カセットテープ	(巻)	24,958
オープンテープ	(巻)	23,204
磁気テープ	(巻)	81
磁気ディスク	(枚)	1,712
光ディスク	(枚)	63,921
ICカード	(枚)	627
地図	(枚)	455,248
	(冊)	47,590
楽譜	(枚)	10,629
	(冊)	2,214
カード式資料	(枚)	31,264
静止画像資料	(枚)	121,365
博士論文	(人分)	472,447
文書類	(点)	276,509
新聞切抜資料	(枚)	2,009,226
点字・大活字資料	(冊)	27,322
その他	(点)	2,827

注：「博士論文」には、外国の博士論文は含まない。

・科学技術関連の資料群の所蔵状況

ここでは、2006年11月現在の科学技術関連資料群の所蔵状況を表形式で示しています。なおNDL館内では、科学技術関係の電子ジャーナル等の提供も行っています。

NDL所蔵の科学技術資料

資料種別	所蔵数	資料種別	所蔵数
国内逐次刊行物 (うち現在受入継続中)	約31,400タイトル (約12,500タイトル)	博士論文(国内)	約464,200件
外国逐次刊行物 (うち現在受入継続中)	約25,600タイトル (約5,700タイトル)	博士論文(海外)	約464,600件
海外テクニカルレポート	約2,550,000件	文部科学省科学研究費補助金 研究成果報告書	約141,200件
欧文会議録	約69,800件	規格	約111,600件
学協会ペーパー	約162,500件	原子炉設置(変更)許可申請書	約1,600件

・電子的な科学技術情報の提供

NDLでは、より能動的な情報提供も行っています。「テーマ別調べ案内」のページでは、科学技術情報に関する調べ方をコンパクトにまとめたガイドを多数掲載しています。これらの情報は、月平均10万ものアクセスを集め、多くの方にご利用いただいています。科学技術情報の調べ方を総合的に紹介したページとして、情報の質・量の充実度は国内では類を見ないものとなっています。他にも、科学技術関係の学術雑誌の情報を検索できる「日本科学技術関係逐次刊行物総覧」、全国の図書館等における質問・回答サービスの記録を蓄積した「レファレンス協同データベース」、「インターネット情報選択的蓄積事業(WARP)」、「データベース・ナビゲーション・サービス(Dnavi)」等において、科学技術情報の提供を行っています。

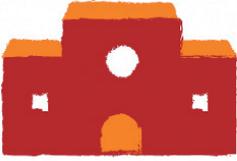
また、NDLの役割の一つとして、国内のデジタル情報資源全体へのナビゲーション総合サイトの構築が挙げられます。デジタル情報へのワンストップサービスの実現を目標とした「デジタルアーカイブポータル(プロトタイプシステム)」(2005年7月から提供。)を通じて、「第二期科学技術情報整備基本計画」の柱である電子図書館の実現を目指します。

《今後の展望》

今後は、上記サービスの充実とともに、科学技術情報の整備に資するための調査・研究も重要であると考えています。NDLでは、過去数年にわたり複数の調査を行っており、それらの調査結果は、「科学技術情報整備に関する調査・研究」のページからご覧いただけます。本年度は、遠隔利用の複写サービス(インターネット等で申込みを受け付け、複写物を郵送で提供するサービス。)における科学技術分野資料の利用実態の調査を行う予定です。

科学技術情報を社会へ広く、わかりやすく伝達することの重要性は、情報環境が激変する中、かつてなく高まっています。私たちは、〈科学技術情報整備〉のページが、国の重要な課題である、科学技術情報への適切なナビゲーションというサービスにおいてさらに重要な役割を果たせるよう、今後その発展をますます図っていきたいと考えています。

(主題情報部科学技術・経済課 なかじま ゆきこ 中島 幸子)



知識をカタチに

— 国立国会図書館が目指す「主題情報提供サービス」

第6回：「科学技術情報整備」のページ

皆さんは、「科学技術情報」と聞いて、どのような情報を思い浮かべますか？実際は、皆さんが思い浮かべるような、学会で発表される学術的な論文だけでなく、テレビの天気予報で伝えられるような毎日の気温のデータ、あるいは食品に添加される様々な物質のデータのような、私たちの生活に密接に関わる情報までを含んでいます。それらの科学技術情報は、かつては冊子体、マイクロフィッシュ等の物理的媒体で蓄積され、流通していましたが、近年は、電子情報で流通することも多くなっており、それに伴い情報量も爆発的に増大してきています。

国立国会図書館（以下、「NDL」といいます。）は、国会や研究者・技術者、さらに国民全体の利用に資するため、多くの科学技術資料を収集し、提供しています。また、これらの資料群、情報源の効率的な利用方法や、関連テーマに関する調べ方の案内などの提供も積極的に行っています。

〈科学技術情報整備〉のページは、NDLにおける科学技術に関する情報を、一元的に提供することを目的として作成したものです。それら科学技術情報の多くは、従来からNDLサイト上の各所で提供されていたものですが、相互の関係は分かりにくいものでした。当ページにより、初めてそれらの情報の有機的な関連付けができました。次に、当ページ内の各項目のうち、特に重要なものについて概要を紹介します。

《科学技術情報整備の沿革》

このページでは、科学技術情報整備の沿革について説明を行っているほか、各計画の本文へのアクセスが可能になっています。

NDLにおける科学技術情報整備の原点は、米国政府委託研究の成果を集めた資料であるPBレポートの収集開始（1952年）、原子力関係資料の収集開始（1953年）にあると言えます。後者の収集開始の際には、助言と協力を得るため、湯川秀樹博士を中心とした専門家による懇談会を開催しました。この懇談会が現在の科学技術関係資料整備審議会の前身であり、これ以来、NDLでは、外部の識者の意見を基に科学技術情報整備の指針を形成するという体制をとっています。時代は飛んで、1998年には「国立国会図書館科学技術情報整備基本計画」を、2006年6月にはその後継に当たる「第二期科学技術情報整備基本計画」を策定しました。現在は、従来の諸計画と比較して電子情報環境の進展を強く意識した内容である同計画に基づいて、科学技術情報の収集・提供の充実を行っています。

《発展する科学技術情報整備～「科学技術情報整備の現況」》

ここでは、当館における科学技術情報の提供状況を一覧することができます。

1 国立国会図書館ホームページトップ>「国立国会図書館について」>『科学技術情報整備』のページ (http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/technology_info.html)

ビジュアル国立国会図書館博物館

No.9

気送管設備（東京本館・本館）

閲覧者から受け付けた資料請求票を書庫に送る設備。集中分配式（受付から各層に資料請求票を送る）と単管往復式（書庫からカウンターへの連絡、各層間のやりとり）がある。東京本館・新館にも設置されている。



（写真1）気送子に入れた資料請求票をカウンターから書庫に送る。

国立国会図書館が所蔵している多くの資料は、現在はNDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）を使って申し込みます。NDL-OPACから申し込むと、その資料が排架されている書庫の層にあるプリンターから申込票が打ち出されます。職員はその申込票をもとに資料を出納します。

このシステムに切り替わる前は、利用者は紙の資料請求票に記入し、カウンターの受付に申し込み、受付では、職員が資料請求票に記載された資料が排架されている書庫内の各層に、資料請求票を送っていました。その際に活躍していたのが気送管設備です。では、この設備がどのように使われていたか、本館図書カウンターを例にご紹介します。

受付では、資料請求票に記載されている資料請求記号を見て、申し込まれた資料が1層から17層に分かれている書庫の何層にあるか、あるいは図書カウンターで受け付けるべき資料か否かを瞬時に判断します。混み合っている受付で、資料請求票をいかに早く正確に仕分けするかが、腕の見せ所でもありました。

受け付けた資料請求票を書庫の各層に送る際（写真1）、資料請求票を気送子（写真2）に入れ、該当層のボタンを押すと、秒速6mで該当層に届きます。



（写真2）気送子：透明な筒状の入れ物
外寸法 約5cm×18cm
合成樹脂

現在では、NDL-OPACの画面で、ご希望の資料がどこのカウンターから出てくるのか（図書カウンター、雑誌カウンター等）、また、「利用中」「製本中」など資料の状態も、申込み時点で分かるようになっています。しかし、以前は、書庫で資料の状態を確認してからでないとそのようなことは分からなかったもので、その旨をいち早く利用者に知らせるためにも、気送子が使われていました。また、資料請求票が間違った層に送られた場合に、正しい層に移送するためにも使用していました（写真3）。

今でも、NDL-OPACでは検索できない一部の資料群の申込みがあった場合に、また、NDL-OPACの画面上では確認できない書庫内の資料の状態について、カウンターの職員に連絡する必要がある場合など、まだまだ現役で使われています。

システム化が進み、以前に比べて活躍の場が減ってきている気送管設備ですが、利用者の皆様に資料を早く正確にお届けするために、これからも働き続けます。

なかざわ しげかず
（中澤 滋和）



（写真3）気送子に入れた資料請求票を書庫から書庫に送る。

国際子ども図書館

〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49

電話 03 (3827) 2053

利用案内 電話 03 (3827) 2069 (音声・FAXサービス)

ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>

国際子ども図書館は、国立国会図書館の支部図書館として内外の児童書とその関連資料に関する図書館サービスを国際的な連携のもとに行います。

利用できる人 どなたでも利用できます(ただし資料室は満18歳以上の方)。

資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。

開館時間 9:30~17:00

休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は除く)、
年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)

休室日 休館日以外に次の日が休室となります。

2階第一、第二資料室：日曜日

3階本のミュージアム：展示会準備期間

支部東洋文庫

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-21

電話 03 (3942) 0122 (代表)

東洋学の発展を目的とする専門図書館。

アジア全般にわたる資料・研究書を所蔵しています。

国立国会図書館月報

平成19年9月号 (No.558)

発行所 国立国会図書館

平成19年9月20日発行 定価525円
(本体500円)

編集責任者 矢部 明 宏

発売 社団法人日本図書館協会

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 03 (3581) 2331 (代表)

電話 03 (3523) 0812

FAX 03 (3523) 0842

FAX 03 (3597) 5617

E-mail hanbai@jla.or.jp

E-mail geppo@ndl.go.jp

印刷所 株式会社丸井工文社

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜き取り転載される場合には、事前に当館総務部総務課に連絡してください。本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ(<http://www.ndl.go.jp> 「刊行物」 「国立国会図書館月報」)でご覧いただけます。

表紙 中性紙使用

本文 中性再生紙使用

NATIONAL DIET LIBRARY MONTHLY BULLETIN
No. 558 September 2007

CONTENTS

- Moko genryu-ko (Random notes on rare books, 475)
- 1 Stacks in the NDL - passing on the precious cultural heritage
- 19 Library guidance for librarians in FY 2007
- 20 15th meeting of the Legal Deposit System Council and 6th meeting of
the Compensation Division
- 22 Three months in the National Library of China - report of research
in China..... Fumiko Shimizu
- 37 Excerpts from the Annual Report of the NDL, FY2006: statistics (1)
-
- 18 Tidbits of information on NDL
- 27 Monthly official report
- 27 NDL news
- 28 Books not commercially available
- 30 Publications from NDL
- 39 Give shape to knowledge - NDL headed to "Subject Information Services" (6)
- 40 Visual NDL Museum (9)
-
- < Announcement >
- 18 Announcement of regular exhibition
- 31 NDL metadata standards open to public and call for comments
- 31 NDL to take part in Library Fair & Forum 2007
- 32 Training program on Asian information FY2007 "How to access
academic information of China"
- 33 Lectures related to the exhibition at the International Library of
Children's Literature: Palette of Dream Colours III - Winning Works of
Noma Concours for Picture Book Illustrations from Asia, Africa and
Latin America

